

# 東京創元社

## 2026年 新刊ラインナップ

### 海外ミステリ Lineup for 2026 : Foreign Mysteries

1	『 <b>悪い男</b> 』 <b>Myrká</b>	創元推理文庫	
	アーナルデュル・インドリダソン	柳沢 由実子 訳	発売中
	レイキャヴィクのアパートの一室で、刃物で喉を切り裂かれた若い男の死体が発見された。男はレイブドラッグと言われるクスリを所持しており、どうやら酒に酔った女性にクスリを飲ませて意識を失わせレイブをしていた常習犯らしいことがわかる。被害者に復讐されたのか？ 犯罪捜査官エーレンデュルが行方不明のなか、同僚のエリンボルクは現場に落ちていた一枚のスカーフの香りを頼りに捜査を進める。北欧の巨人の人気シリーズ第7弾。		
	著者紹介：1961年アイスランドの首都レイキャヴィク生まれ。父親は高名な作家インドリディ・G・トーステンソン。アイスランド大学で歴史学と映画を専攻し、卒業後新聞社に就職。その後、フリーの映画評論家になる。1997年にレイキャヴィク警察の犯罪捜査官エーレンデュルを主人公とするシリーズ第一作Synir duftsinsで作家デビュー。3作目にあたる『湿地』と4作目の『緑衣の女』で2年連続してガラスの鍵賞を受賞。『緑衣の女』では、英国のCWAゴールドダガー賞も受賞している。		

2	『 <b>冷たい火</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>Furðustrandir</b>	四六判並製	
	アーナルデュル・インドリダソン	柳沢 由実子 訳	冬
	『悪い男』『黒い空』で行方不明となっていた主人公の捜査官エーレンデュルが2巻ぶりに戻ってきた。同僚たちの心配をよそに休暇をとったまま消息を絶っていたエーレンデュルはその間何をしていたのか？ 幼い頃に吹雪の中行方不明になった弟のことを調べるうちに、同じように吹雪のなかで消えてしまった若い女性の事件を耳にし、気になって調査をするが……。北欧の巨人インドリダソンの傑作ミステリ。		

3	<b>Locked in Pursuit（金庫破りときどきスパイ 4）</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫	
	アシュリー・ウィーヴァー	辻 早苗 訳	年内
	第二次世界大戦下のロンドン。ラムゼイ少佐とともにドイツのスパイ活動を妨害する任務についてきた金庫破りのエリーは、亡き父の恐るべき秘密を知ったショックから立ち直れずにいた。ある日、新聞に載っていた強盗事件の記事に違和感を覚え、ラムゼイ少佐を訪ねる。どうやら裏にもっと大きな陰謀があるらしいとわかり、ふたりはタッグを組んで調査にあたることに。だが聞き込みの最中に、殺害された女性の遺体を発見し……。凄腕の金庫破りと堅物の青年少佐の謎解きを描く人気シリーズ、急展開の第4弾！		
	著者紹介：アメリカ、ルイジアナ州オークデール在住。14歳のときから図書館で働いており、現在もルイジアナ州アレン郡図書館に勤めている。2014年に『奥方は名探偵』で作家デビュー。同作は2015年のアメリカ探偵作家クラブ（MWA）賞最優秀新人賞の候補となった。2021年に『金庫破りときどきスパイ』を刊行し好評を博す。続編に『金庫破りとスパイの鍵』（2022）、『金庫破りの謎解き旅行』（2023）、Locked in Pursuit（2024）がある。		

4	<b>Stateless</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫	
	エリザベス・ウェイン	吉澤 康子 訳	初夏
	1937年。ヨーロッパで、平和推進を目的とした青少年エアレースが開催される。20歳までのパイロット12人が英国から飛行機で出発し、さまざまな国を経てパリへ向かい、タイムを競い合うのだ。唯一の女性パイロットである英国代表のステラは、レース初日に恐るべき光景を目撃する。前方を飛んでいた二機の飛行機のうち、上の飛行機が下に向かって意図的に接近したように見えた。そして片方は海に墜落。――勝利のために、誰かが残忍な殺人を犯したのか？ ステラは自らの身を守るため犯人捜しに乗りだすが……。国際スリラー作家協会YA部門賞受賞、『コードネーム・ヴェリティ』の著者が大空を飛ぶパイロットたちを描く爽快なミステリ！		
	著者紹介：1964年ニューヨーク生まれ。ペンシルベニア大学で民俗学の博士号を取得。小型飛行機の操縦が趣味で、国際的な女性パイロットの組織、ナインティ・ナインズのメンバーになっている。1993年、アーサー王伝説を題材にした物語The Winter Princeでデビューする。同シリーズの4作目にあたるThe Lion Hunter（2007）はアンドレ・ノートン賞の候補になった。2012年刊の『コードネーム・ヴェリティ』はアメリカ探偵作家クラブのエドガー賞ヤングアダルト小説部門を受賞したほか、アガサ賞、ゴールデン・カイト賞、カーネギー賞など数々の賞の最終候補になり、高く評価された。その他の著作に『ローズ・アンダーファイア』などがある。		

5	『 <b>セント・アガサが揺れた夜</b> 』 <b>The Bad Quarto</b>	創元推理文庫	
	ジル・ペイトン・ウォルシュ	猪俣 美江子 訳	発売中
	ケンブリッジ大学セント・アガサ・カレッジに伝わる〈ハーディングの悪ふざけ〉。ある夏の夜、新進気鋭のフェローが転落死したのは、学寮の塔から図書館の屋根へ飛び移るこの悪弊に失敗したからだと思われた。しかし事故死という判断は一年近くのちに、大いに揺らぐことになった。ごたごたを抱えた演劇クラブが、通常は使われない〈粗悪な四つ折本〉版の『ハムレット』を公演している最中、主演の学生がとった驚きの行動で。英国ミステリならではの楽しみに満ちた、〈イモーゼン・クワイ〉シリーズ最終巻！		
	著者紹介：1937年、ロンドンに生まれる。オックスフォード大学卒業。教員生活を経て『焼けあとの雑草』などの児童小説や、ブッカー賞の候補になったKnowledge of Angelsに代表される歴史小説を多数発表し、作家としての確固たる地位を築く。93年からは『ウィンダム図書館の奇妙な事件』にはじまる〈イモーゼン・クワイ〉シリーズを4作発表。2作目の『ケンブリッジ大学の途切れた原稿の謎』でCWAゴールドダガー賞候補に。さらに98年にドロシー・L・セイヤーズのピーター・ウィムジイ卿シリーズの公式続編Thrones, Dominationsを刊行。以降シリーズを全4作発表し、好評を博した。2020年没。		

6	<b>A Deadly Influence</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫	
	マイク・オマー	西谷 かおり 訳	夏
	ニューヨーク市警の人質交渉人アビー・マレンに、30年以上会っていなかった友人のイーデンから電話がかかってくる。彼女の携帯に、8歳の息子を誘拐したと連絡があったという。犯人は身代金として500万ドルを要求してきた。イーデンに払えるはずもない、異様に高額な身代金の金額の理由は？ アビーはイーデンによりそい、電話で犯人との交渉に乗り出すが――。人質交渉人は、犯罪者の心理を深く考察し、適切な言葉で相手の心を変えて事件解決へと導くプロフェッショナル。圧巻の交渉術と緻密なサスペンスを堪能できる、一気読み必至のミステリ3部作開幕！		
	著者紹介：1979年イスラエル生まれ、アイルランド育ち。ジャーナリスト、ゲーム開発者、ゲーム会社CEOなどを経て作家となる。1995年に本名でファンタジー作品The Geography of the End of the World を刊行したのち5作を執筆、2016年にマイク・オマーに改名してSpider's Webを刊行し、以降ミステリを中心に執筆をおこなう。2021年刊行のA Deadly Influenceから始まる人質交渉人アビー・マレン・シリーズ3部作はベストセラーになった。		

7	『 <b>壇の中の手記</b> 』【文庫版】 <b>The Oxoxoco Bottle and Other Stories</b>	創元推理文庫	
	ジェラルド・カーシュ	西崎 憲 他訳	夏
	こんな話を信じてもいいものだろうか？ 無人島で発見された奇怪な白骨に秘められた哀しくも恐ろしい愛の物語「豚の島の女王」をはじめ、米文学史上最大のミステリ、アンブローズ・ピアスの失踪を題材に不気味な幻想譚を創造したエドガー賞受賞作「壇の中の手記」、十八世紀英国の漁師の網にかかった極彩色の怪物の正体を探る「ブライトンの怪物」、世界を股にかける死の商人のグロテスクな野望と恐るべき結末「死はわが同志」他、異色作家カーシュの途方もない奇想と恐怖、ねじれたユーモアに満ちた短篇傑作選。		
	著者紹介：1911年イギリス生まれ。用心棒、パン屋、レスラー、新聞記者などの職を転々としたあと文筆生活に入り、34年に長篇 Jews Without Jehovah でデビュー。ミステリ、怪奇小説、SF、ファンタジイなど、幅広いジャンルの夥しい作品を発表、犯罪王カームジンの短篇シリーズも好評を博した。のちにアメリカに移住。58年「壇の中の手記」でアメリカ探偵作家クラブ賞短編部門を受賞。奔放な想像力と独創的なアイデア、特異なスタイルをもった短篇は熱烈なファンをもつ。68年没。		

8	『 <b>瞬（まばた）きすら許さない</b> 』 <b>In the Blink of an Eye</b>	創元推理文庫	
	ジョー・キャラハン	吉野 弘人 訳	3月
	警視正のキャット・フランクは昔気質の刑事だ。事件現場を歩き、容疑者の眼を見ることが捜査の核心だと信じている。新設の捜査チームを率いることになった彼女は、ロックという名の人工知能に出合う。この新世代の「捜査官」は、ホログラムの体を持ち、統計データに基づいて事件解決を支援するのだという。生意気なまでに合理性を重視するロックと、刑事の直感を信じるキャット。相反するふたつの頭脳が挑むのは、ありふれているようで、何かが異様な未解決失踪事件……。英国推理作家協会賞受賞、二十一世紀の最前線をゆく傑作警察捜査小説！		
	著者紹介：イギリスの作家。23年In the Blink of an Eyeでデビュー。本作は24年英国推理作家協会賞最優秀新人賞とシークストン・オールドベキュリア犯罪小説賞を受賞、25年バリー賞最優秀新人賞の最終候補作に選出された。続編としてLeave no Trace およびHuman Remainsが発表されている。		

9	『 <b>グデリアの死ぬ家</b> 』※仮題 <b>Das Haus in dem Gudelia stirbt</b>	創元推理文庫	
	トーマス・クヌーヴェア	安原 実津 訳	夏
	2024年、ドイツの小さな村を豪雨が襲う。村に洪水が迫る中、避難を頑なに拒否して自宅にとどまる80代の女性グデリアがいた。グデリアは天涯孤独の身。息子ニコを1984年に何者かに殺され、夫のハインツとは17年前に死別していた。グデリアはなぜ家に残ろうとするのか？ そこには彼女の抱える暗い秘密の存在があった。そして洪水が去り、村に新たな死体がふたつ……。2024年現在、息子が15歳の若さで死んだ1984年、そして1998年。三つの年を行き来しながら、グデリアと周囲の人々に起きた悲劇を綴る物語。著者のミステリ・デビュー作にして、ドイツの著名なミステリ文学賞2冠に輝いた傑作が登場。		
	著者紹介：ドイツの作家、ハンブルグ在住。1983年生まれ。グラフィックデザイナーとして働かたわら、自費出版で小説を2作出版したあと、本書を2024年に刊行し本格デビュー。2024年のドイツ・ミステリ大賞とシュトゥットガルト・ミステリ賞を受賞し、フリードリヒ・グラウザー賞（ドイツ推理作家協会賞）の最終候補作となった。		

10	<b>Hidden Depths</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫	
	アン・クリーヴス	玉木 亨 訳	5月
	イングランド北東部ノーサンバーランド州にある海に面した町。ある夏の夜、ひとりの少年が自宅で死んでいるのが見つかる。絞殺された彼の死体は、浴槽の中に沈められ、水面にはなぜか野の草花が浮いていた……。ヴェラ・スタンホープ警部の捜査により浮かび上がる小さな町の人間関係と秘密。事件の真相と犯人の名は？ 大人気ドラマ「ヴェラ ～信念の女警部～」原作にしてクリーヴスの名を一躍知らしめた傑作ミステリ・シリーズ！		
	著者紹介：作家。1954年英西部ヘレフォード生まれ。1986年 A BIRD IN THE HAND でデビュー。2002年、「運転代行人」がCWA最優秀短編賞の候補になる。2006年、「大鴉の啼く冬」でCWA最優秀長編賞を受賞。		

11	『 <b>クリスティの家政婦</b> 』※仮題 <b>Murder at Mallowan Hall</b>	創元推理文庫	
	コリーン・ケンブリッジ	田辺 千幸 訳	年内
	時は1930年——ここは英国の田舎町、ミステリ作家アガサ・クリスティが暮らす屋敷、マローワン・ホール。家政婦長のフィリダは大勢の使用人を抱えるこの屋敷の家事をとりしきり、来る日も来る日もてきばきと働いている。しかしある日、図書室に死体が現れた。凶器はなぜか万年筆。不自然な本棚。現場には奇妙な手がかりが残されていたが、フィリダの雇い主であるアガサは「本物の殺人はからきしなの」と執筆に没頭中。フィリダは屋敷の平和を取り戻すため謎解きをはじめる……。アガサ賞ノミネートのお屋敷お仕事ミステリ！		
	著者紹介：アメリカのベストセラー作家。アガサ・クリスティとエリス・ピーターズを愛好。アガサ・クリスティが暮らす屋敷を舞台とした『クリスティの家政婦（仮）』は22年アガサ賞歴史小説部門の最終候補に選出された。ミステリ、歴史小説、ファンタジイなど幅広いジャンルで執筆をおこなっている。		

12	『 <b>メインキャラクター</b> 』 <b>The Main Character</b>	創元推理文庫	
	ジャクリーン・ゴルデイス	法村 里絵 訳	4月
	ベストセラー作家、ジネヴラ・E xからプレゼントされた、オリエント急行での三日間の旅。ジネヴラは実在の人物をモデルとした小説執筆を得意としており、最新作のメインキャラクターに選ばれたローリィは、謝礼に加えてこの豪華列車の旅を贈られたのだ。しかしローリィが列車に乗りこむと、そこには兄、親友、元恋人など、彼女の人生と浅からぬ関係をもつ人々の姿が。さらにジネヴラの弁護士からは最新作『湖畔のキャビン』の仮製本が手渡される。ローリィの人生が描かれたはずの本書はミステリで、最後には誰かが死ぬらしい……。謎が謎を呼び疾走する豪華絢爛なミステリ！		
	著者紹介：アメリカのミシガン大学で経済学の学士号を取得後、ニューヨーク大学のロースクールで法学博士号を取得。シカゴの大手法律事務所 で信託法と不動産法を専門とした後に退職し、世界中を旅して小説を書く。2021年When We Were Youngで作家デビュー。24年発表のThe Main Characterは2作目のミステリとなる。		

13	<b>Mother-Daughter Murder Night</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫	
	ニーナ・サイモン	神林 美和 訳	初夏
	不動産バイヤーのラナは、仕事一筋で都会を生き抜いてきた。しかし癌を宣告され、16年前に家を出ていった娘のベス、孫娘のジャックと静かな海辺の町で暮らし始めることに。15歳のジャックは、家の周りの湿地でカヤックツアーのガイドのアルバイトをしているが、工作中に他殺遺体を発見してしまう。ジャックは刑事たちに容疑者のように厳しく問い詰められ、ラナは孫のために真相を見つけ出そうと、ベスの反対を振り切って事件の調査を始める。エネルギー豊富な祖母、堅実な娘、しっかり者の孫。個性豊かな3人の推理と絆を描く謎解きミステリ！		
	著者紹介：アメリカ、ロサンゼルス出身。20年間、展覧会のデザイナー、美術館ディレクター、非営利団体のCEOなどを務める。美術関連書籍The Participatory MuseumやThe Art of Relevanceを刊行。2023年、デビュー・ミステリとなるMother-Daughter Murder Nightを刊行。		

14	<b>Not Quite Dead Yet</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	ホリー・ジャクソン	服部 京子 訳
		夏
	ハロウィーンの前夜。27歳のジェットは、自宅で何者かに殴打されて意識不明となってしまう。緊急手術の2日後に目覚めたが、彼女の脳内には動脈瘤が形成されつつあった。およそ1週間後に破裂すると考えられ、手術は不可能。余命1週間を宣告されたジェットは死ぬまでに襲撃犯を見つけると誓い、幼馴染のピリーの手を借りて調査を始める。だが容疑者に身近な人物ばかりが浮かんできて……。死期という究極のタイムリミットに挑む探偵役を描く、『自由研究には向かない殺人』の著者が放つ圧巻の謎解きミステリ！	
	著者紹介：イギリス、バッキンガムシャー出身の作家。子どものころから物語を書きはじめ、15歳で最初の小説を完成させた。ノッティンガム大学で言語学と文芸創作を学び、英語の文学修士号を取得。2019年に刊行したデビュー作『自由研究には向かない殺人』は英米でベストセラーとなり、2020年のブリティッシュ・ブックアワードのチルドレンズ・ブック・オブ・ザ・イヤーを受賞した。続編に『優等生は探偵に向かない』『卒業生には向かない真実』がある。その他の著作にThe Reappearance of Rachel Price（2024）などがある。	

15	<b>『ピーター・スワンソン中・短編集』</b> ※ <b>仮題</b>	創元推理文庫
	ピーター・スワンソン	務台 夏子 訳
		冬
	アメリカからロンドンに留学したアシュリーは、クリスマス休暇に、友人の実家であるコッツウォルズの旧領主館に招かれる。居心地のいい屋敷で理想のクリスマスを過ごし、友人の兄の.Adamに惹かれていくアシュリー。しかし彼には予想外の噂が……。スワンソンらしい驚愕の展開が待ち受ける中編The Christmas Guestのほか、子供じみた競争心から危険な崖登りに挑む二人の男とその陰に潜む歪な心理を描く「海食崖」など全7作を収録。ミステリ好きへのクリスマス・プレゼントにぴったりの、面白くて、巧みで、スリリングな日本オリジナル短編集！	
	著者紹介：アメリカ、マサチューセッツ州出身。コネチカット州のトリニティ・カレッジ、マサチューセッツ大学アマースト校、エマーソン・カレッジに学ぶ。2014年に『時計仕掛けの恋人』でデビュー。2015年に刊行された第二長編『そしてミランダを殺す』は、英国推理作家協会（CWA）賞のイアン・フレミング・スチールダガー部門で最終候補となった。その他の著作に『ケイトが恐れるすべて』『アリスが語らないことは』『だからダスティンは死んだ』『8つの完璧な殺人』、Every Vow You Break(2021)、The Kind Worth Saving(2023)、A Talent For Murder(2024)などがある。	

16	<b>『赤後家の殺人』</b> 【新訳版】 <b>The Red Widow Murders</b>	創元推理文庫
	カーター・ディクソン	高沢 治 訳
		3月
	【名作ミステリ新訳プロジェクト】「君は部屋が人を殺せると思うかね？」テアレイン博士を訪れた友人のジョージ卿はそう問いかけた。ロンドン市中に建つマントリング卿の邸には過去に四人もの人物が怪死を遂げた「後家の部屋」なる一室があり、今夜はその謎をあばくのだという。だが深夜、密室状態の室内で、またひとり死者が出る――。フランス革命時に遡る因縁が死を招いたのか？ 「人を殺す部屋」の謎に名探偵ヘンリ・メリヴェール卿が挑む、不可能犯罪ものの傑作。	
	著者紹介：アメリカ、ペンシルヴェニア州生まれ（1906-77）。本名ジョン・ディクソン・カー。1930年に予審判事アンリ・バンコランを探偵役とした『夜歩く』を発表。以後、ギディオン・フェル博士シリーズの『帽子収集狂事件』『曲がった蝶番』、ノンシリーズの『皇帝のかぎ煙草入れ』（以上カー名義）、ヘンリ・メリヴェール卿シリーズの『黒死荘の殺人』『ユダの窓』など、オールタイム・ベスト級の傑作を次々とものし、熱狂的な読者を獲得。〈不可能犯罪の巨匠〉と呼ばれる。	

17	<b>『死んでもいいくらいの掘り出し物』</b> <b>Ett fynd att dö för</b>	創元推理文庫
	アンデシュ・デ・ラ・モッツ&モンズ・ニルソン	久山 葉子 訳
		4月
	骨董市で遺品買い取り業者の男が殺された。たまたま現場近くにいあわせたストックホルム国家殺人班の捜査官ヴィンストンが、現場を保持し初動捜査を指揮してしまったいきがり上、またしても地元警察唯一の捜査官エスピングと一緒に捜査することに。被害者は故人の財産を遺族から買い取る際にかなりあこぎなことをして、恨みを買っていたらしい。他にも浮気をしていて、愛人には妻と別れると話していたことも判明。人間としての相性はさっぱりなのに捜査の意見はびったりなコンビが、容疑者にも動機にも事欠かない事件に挑む、シリーズ第二弾。	
	著者紹介：アンデシュ・デ・ラ・モッツ＝1971年生まれ。元警官で2010年に『監視ごっこ』（早川書房）でミステリ作家としてデビュー、同作でスウェーデン推理小説アカデミーの最優秀新人賞を受賞。『監視ごっこ』にはじまる3部作のあと、次のシリーズの2作目UltiMatumではスウェーデン推理小説アカデミーの最優秀ミステリ賞を受賞している。本シリーズではじめて共著者と共に、故郷スコネ地方を舞台にした軽いミステリに挑戦している。モンズ・ニルソン＝1977年生まれ。脚本家、テレビのホストコメディアンでもある。	

18	<b>『アリゲーターには手を出すな』</b> <b>Later Gator</b>	創元推理文庫
	ジャナ・デリオン	島村 浩子 訳
		3月
	シンフルはご存じ「ワニの町」。そんな町の象徴であるワニを密猟する不逞の輩が現れた。折りしもフォーチュンは今後の身の振り方を模索中、ガーティは釣りに、アイダ・ベルは改造車に夢中の毎日。別行動が増えたガーティは、バイユーをうろついでどうも怪しい。まさか？　フォーチュンは探偵稼業に向いているかのいいお試しと、事件を探りはじめる。今度こそ静かに犯人を突き止めるつもりだったけど、やっぱりそれで済むはずもなく……装備も中身もパワーアップしすぎな三人組が、町をバイユーを疾走する！　〈ワニ町〉シリーズ、お騒がせ第9弾。	
	著者紹介：ルイジアナ州カルカシュー郡カーライスに生まれる。2006年に長編Rumble on the Bayouで作家デビュー。現在はテキサス州ダラスに住み、ルイジアナを主な舞台としたミステリのシリーズを複数執筆している。	

19	<b>The Haunted Abbot（修道女フィデルマ 12）</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	ピーター・トレメイン	田村 美佐子 訳
		秋
	『昏き聖母』のラストでエイダルフとともにカンタベリーを目指し、サクソン人の王国があるブリテン島に向けて船出したフィデルマだったが、嵐でウェールズに立ち寄り事件に巻きこまれる『風に散る煙』を経て、本書でようやくエイダルフの故郷であるサクソンの王国にたどりつく。完全にアウェイであるサクソンの地で修道院での幽霊騒ぎ、殺人事件に巻きこまれる。アイルランドの王女という権威もドーリーの資格もあまり通じない地で、フィデルマは事件に挑む。シリーズ長編第12弾。	
	著者紹介：1943年英国生まれ。本名はピーター・ベレスフォード・エリス。ケルト関係の学術書を数多く著し、学会の会長や理事もつとめる著名なケルト学者である。小説家としても精力的に活動しており、ピーター・トレメイン名義の代表作《修道女フィデルマ・シリーズ》をはじめ、ホラーやファンタジー、ピーター・マッカラン名義のスリラーなどを刊行している。	

20	『 <b>イスタンブールの殺人</b> 』※ <b>仮題</b> <div><b>Intrigue in Istanbul</b></div>	創元推理文庫
	エリカ・ルース・ノイバウアー	山田 順子 訳
		5月
	ボストンの自宅を抵当に多額の借金をしたまま姿を消した歴史学者の父、ヴンダリー教授の足跡を辿ったジェーンとレドヴァースは、教授がオスマントルコの皇帝の宝の謎を追ってトルコのイスタンブールに向かったことを知り、再び旅の空に。さらにイスタンブールで得た手がかりを追い、ハンガリーのブダペストに向かうオリエント急行に乗る。だがイスタンブールに続きオリエント急行でも殺人事件が……。旅情を誘うジェーン・ヴンダリー・シリーズ4巻目。	
	著者紹介：11年間を軍隊で、2年間を警察官として、その後1年間を高校の英語教師として過ごしたのち作家となる。デビュー作『メナハウス・ホテルの殺人』でアガサ賞の最優秀デビュー長編賞を受賞、以降『ウェッジフィールド館の殺人』、『豪華客船オリンピック号の殺人』、Intrigue in Istanbulと、シリーズ続巻を刊行している。	

21	『 <b>怪物を捕らえる者は</b> 』 <div><b>Monster</b></div>	創元推理文庫
	ネレ・ノイハウス	酒寄 進一 訳
		2月
	聖母マリアの祠の裏、雪の下から16歳の少女の死体が発見された。遺体や服から移民の青年のDNAが見つかるが、刑事オリヴァーとピアが事情聴取をする前に彼は消えてしまう。捜査が難航するなか、田舎道で男が車にはねられて死亡する。男は裸足で、体には動物の咬傷や拷問の痕があった。彼はどこから逃げてきたのか――。ふたつの事件の捜査から導き出される、ドイツ警察を揺るがす最大の危機。大人気警察小説シリーズ最新作！	
	著者紹介：1967年、ドイツ、ミュンスター生まれ。夫が経営するソーセージ工場で働きながら、2005年に初の長篇ミステリUnter Haienを自費出版した。〈刑事オリヴァー&ピア〉シリーズ第一作『悪女は自殺しない』と次作『死体は笑みを招く』も自費出版し、地元の書店で絶大な人気を博す。その後、評判を聞きつけた老舗出版社ウルシュタイン社からの出版が決定し、2009年正式にデビューした。同シリーズにはほかに、『深い疵（きず）』『白雪姫には死んでもらう』『穢（けが）れた風』『悪しき狼』『生者と死者に告ぐ』『森の中に埋めた』『母の日に死んだ』『友情よここで終われ』がある。	

22	『 <b>ウィッチフォード毒殺事件</b> 』 <div><b>The Wychford Poisoning Case</b></div>	創元推理文庫
	アントニイ・パークリー	藤村 裕美 訳
		年内
	レイトン・コート事件で探偵仕事に味をしめた作家ロジャー・シェリンガムは、ロンドン近郊の町ウィッチフォードで発生した毒殺事件に興味をもち、現地へ乗りこむ。ある女性が実業家の夫を砒素で毒殺し、状況証拠は圧倒的、有罪は間違いなしのことだったが……。シェリンガムは友人グリアスン、お転婆娘のシーラとアマチュア探偵団を結成して捜査に着手する。パークリーが「心理的探偵小説」を目指すことを宣言した記念すべき第2作。	
	著者紹介：1893年イギリスのハートフォードシャー生まれ。第一次世界大戦に従軍後、ユーモア作家として〈パンチ〉誌で活躍。「？」名義で『レイトン・コートの謎』を著して以降、『毒入りチョコレート事件』『第二の銃声』『ジャンピング・ジェニイ』など、従来の探偵小説に対する批判を織り交ぜた実験精神あふれる作品を発表。英国本格ミステリ黄金期を代表する作家としてその地位を不動のものとした。他の作品に、フランシス・アイルズ名義で発表したサスペンス『殺意』『レディに捧げる殺人物語』などがある。1971年没。	

23	<b>The Case of Canterfell Codicil</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	P・J・フィッツシモンズ	中山 宥 訳
		年内
	「伯父死亡。見えざる手に押され、窓より転落。至急来られたし。」――ロンドンの紳士クラブで余暇を過ごしていたアンティ・ブジュレーは、英国貴族の末裔である友人から電報を受け取り、彼の一族が住まう城館へとやってきた。事件が起きたのは館の一角にそびえる塔の書斎。伯父は奇妙な状況下でその窓から転落したのだという。転落の直前、書斎からは争うような声が聞こえたにもかかわらず、鍵を打ち破られた室内には誰もいなかった。そのうえ、被害者の最期の言葉を聞いた者が三人現れ、三通りばらばらの言葉を証言し……。斜陽の途をたどる英国貴族の館で名探偵の推理がきらめく、密室犯人当てミステリ！	
	著者紹介：イギリスの作家。2020年にThe Case of Canterfell Codicilを発表し、その後〈名探偵アンティ・ブジュレー〉シリーズとして執筆を続ける。不可能犯罪の謎解きの魅力と軽妙な筆致を融合させる、英国ミステリの新たな書き手である。	

24	『 <b>ニューヨーク・クルーズにぴったりの失踪 警官レイチェル&amp;看護師サラの事件簿</b> 』 <div><b>Deadly Cruise</b></div>	創元推理文庫
	ドーン・ブルックス	田辺 千幸 訳
		4月
	地中海クルーズの事件を解決した警官のレイチェルは、イギリスからニューヨークへ向かうクルーズ旅行に招待された。航海には客船で看護師として働くサラも一緒。殺人事件はこりこり、豪華客船での旅を楽しむつもりが、機関室の乗組員の不審死と失踪が発生！ 姿を消したロシア人乗組員は、殺人を犯して海に飛びこんだの？ しかしロシア人乗客グループが事件に関係しているようで……。親友同士の女性たちが謎解きに挑むコージーミステリ第2弾！	
	著者紹介：イギリス出身の作家。40年近い看護師や助産師としてのキャリアを持つ。児童書やコージーミステリなどを多数執筆。『地中海クルーズにうってつけの謎解き』から始まるシリーズは13作目まで刊行されている。その他の著作に看護師としての回想記Hurry Up Nurse (2021)などがある。	

25	『 <b>007／薔薇と拳銃</b> 』【新訳版】 <div><b>For Your Eyes Only</b></div>	創元推理文庫
	イアン・フレミング	白石 朗 訳
		初夏
	【名作ミステリ新訳プロジェクト】イギリスが誇る秘密情報部の腕利きのスパイ、007のコードをもつ男――ジェームズ・ボンド。パリ郊外の森で、最高機密の入った書類ケースを運んでいたイギリス陸軍司令部隊の早朝伝令係が殺害され、秘密情報部の責任者Mの指令でボンドが犯人を追う表題作のほか、イタリアで麻薬密売ルートを探る「危険」など全5編を収録した傑作短編集。『007／カジノ・ロワイヤル』『007／ロシアから愛をこめて』に続き、名手による新訳第3弾を贈る。	
	著者紹介：イギリスの作家。1908年生、1964年歿。ジャーナリスト出身で、一時諜報活動に従事していたことがある。1953年から、敵にも女性にもめっぽう強い、優雅な英国紳士のスパイ、007ジェームズ・ボンドの活躍する作品を書き始めた。これが1963年から年1冊の割で映画化され、ことに『ロシアから愛をこめて』が全世界で大ヒットとなり、一躍、作者と007の名を高めた。	

26	『 <b>シャーロック・ホームズは引退しました</b> 』※ <b>仮題</b> <div><b>The Missing Maid</b></div>	創元推理文庫
	ホリー・ヘップバーン	廣瀬 麻微 訳
		年内
	1932年ロンドン。この街では名探偵シャーロック・ホームズの物語が多く読者に親しまれている。ペイカー街のホームズの下宿……の住所に建つ金融組合には、ホームズの実在を信じる人々から依頼の手紙が日々届く。男爵の令孫でありながら手に職をつける道を選んだハリエットは、組合に届く手紙に逐一「シャーロック・ホームズは引退しました。」と断りの手紙をタイプするという、珍しくも退屈な仕事をこなしていた。そんなある日、宝石泥棒の疑いをかけられて姿を消した姉を探してほしいという依頼に興味を抱いた彼女は、ホームズの秘書を名乗って調査に乗り出すことに……。才気あふれる若き女性が活き活きとペイカー街を駆けまわるミステリシリーズ第一弾！	
	著者紹介：コーンウォール生まれの作家。2013年に中編Cupidityを上梓して以来、ロマンス作品を数多く執筆。The Missing Maidが初めてのミステリとなる。現在はロンドン近郊の自宅でラブラドル・レトリーバーとともに暮らしている。好きな食べ物はマーマイト。	

27	『 <b>暗黒の瞬間</b> 』 <div><b>Dunkle Momente</b></div>	四六判上製
	エリーザ・ホーフエン	浅井 晶子 訳
	三十年以上のキャリアに幕を引くことを決意した、ベルリンの刑事弁護士エーファ。凄腕で知られる彼女は、多くの忘れがたい事件を手がけてきた。十一人の被告人のなかに一人だけ無実の者がおり、全員がそれは自分だと主張している。一人を救うため十人を無罪とすべきか。厄介だがよく議論される類の事件だと思われたが……。ひとつの証言、発見、弁護活動でその姿が一変する平凡な裁判、そして異常な裁判――。息を呑むような完璧なる連作短編ミステリ。	
	著者紹介：1982年ベルリン生まれ。ベルリン自由大学のほか、ラドバウド大学、ケンブリッジ大学などで刑事法を学び、現在はライプツィヒ大学法学部教授。ザクセン州憲法裁判所の裁判官も務める。共著で専門書や児童書などを発表したのち、2025年『暗黒の瞬間』でミステリ作家としてデビューする。	

28	『 <b>沈黙の森</b> 』 <div><b>Open Season</b></div>	創元推理文庫
	C・J・ボックス	野口 百合子 訳
	ジョーは野生動物を保護・管理する新米の猟区管理官。やりがいはある仕事だが、着任早々、密猟者に違反切符を切っている最中に自分の銃を奪われ、町中の笑いものになってしまう。だがある日、娘と自宅の庭で見つけたのはその密猟者の死体だった……。家族と仕事を愛し、巨悪や大自然の脅威に立ち向かう鮮烈な主人公が誕生し、主要ミステリ新人賞を独占した冒険サスペンス。〈猟区管理官ジョー・ピケット・シリーズ〉伝説の第一作！	
	著者紹介：アメリカのワイオミング州生まれ。牧場労働者、測量技師、フィッシング・ガイド、地方紙編集者などさまざまな職業を経て旅行マーケティング会社を経営。2001年、猟区管理官のジョー・ピケットを主人公にした『沈黙の森』で作家デビューし、アンソニー賞、マカヴィティ賞、ガムシュー賞、バリー賞各賞の新人賞を受賞した。エドガー賞最優秀長編賞を受賞した『ブルー・ヘヴン』のほか、猟区管理官ジョー・ピケット・シリーズの『狼の領域』『冷酷な丘』『鷹の王』『発火点』『越境者』『嵐の地平』『熱砂の果て』『暁の報復』『暴風雪』『群狼』など著書多数。	

29	『 <b>Long Range</b> 』※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	C・J・ボックス	野口 百合子 訳
	猟区管理官ジョー・ピケットは、ガイドがグリズリーに襲われた山中へ向かっていた。しかし現場到着の前に、すぐ戻るようにという連絡が入る。ヒューイット判事が何者かに自宅で狙撃されたのだ。だが、偶然のなりゆきで弾は妻のスウに当たり、彼女は瀕死の重傷を負ってしまった。判事は自分が有罪を宣告した者の中に犯人がいるはずだと断定し、ジョーを含む全法執行官に捜査を命じる。ジョーは射撃のプロである盟友、鷹匠のネイトに協力を仰ぐが、ネイト自身にも危険が迫っていた……。『群狼』に続く、大人気冒険サスペンス・シリーズ最新作！	

30	『 <b>Bone of Contention</b> (ロンドン、ドッグパーク探偵団 2)』※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	ブレイク・マーラ	高橋 恭美子 訳
		夏
	イーストロンドンの街の公園を舞台に、様々な犬種の犬たちと愛情溢れる飼い主たちが繰り広げられるコージーミステリ第2弾。飼い主グループのメンバーイーズとイリーナ。正確には+その飼い犬たち。今回もご近所トラブルから殺人まで、いろいろな事件に巻きこまれる（鼻を突っ込む?）。犬を飼っている人なら思わずうなってしまうくらいリアルな問題が満載の犬連れご近所ドッグミステリ。	
	著者紹介：ニューヨーク生まれで、後に英国に移住。マーラ・ティモン名義で〈City of Spies〉シリーズを刊行している。ブレイク・マーラ名義では『ロンドン、ドッグパーク探偵団』が第一作となる。	

31	『 <b>The Fury</b> 』※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	アレックス・マイクリーディーズ	池田 真紀子 訳
	劇作家のエリオット・チェイスは元映画女優のラナから休暇に誘われ、地中海の孤島をおとずれた。家族と友人で過ごす美しい砂浜でのバカンスの陰に、穏やかならぬ人間関係が見え隠れする。そして迎えた嵐の夜、とうとう一発の銃声が鳴り響き……。「わたし」自身の独白と関係者の証言が交錯する、五幕構成の犯罪物語。騙しの達人が放つ傑作サスペンス！	
	著者紹介：1977年キプロス生まれの作家・脚本家。ケンブリッジ大学卒業後、アメリカン・フィルム・インスティテュートで脚本を学ぶ。2019年刊行の『サイコセラピスト』が世界中で650万部以上を売り上げる大ベストセラーとなる。	

32	『 <b>凶悪の浜</b> 』【新訳版】 <div><b>The Barbarous Coast</b></div>	創元推理文庫
	ロス・マクドナルド	田口 俊樹 訳
	【名作ミステリ新訳プロジェクト】南カリフォルニア、ロサンジェルス郊外のマリブ海岸に若い女性の射殺体が上がった。背中から心臓を打ち抜かれていた。事件は迷宮入りとなった。その2年後、再び惨死体が漂着。相前後して、二つの殺人事件が発生。暴力と恐喝。ハリウッドのプロデューサー、暗黒街のボス、彼に操られる美男のボクサーが絡む事件に私立探偵リ्यू・アーチャーが挑む。正統派ハードボイルドの雄、ロス・マクドナルドの傑作、新訳決定版。	
	著者紹介：1915年にカリフォルニアで生まれ、西部カナダで育ち、44年に長編『暗いトンネル』でデビューした。49年の『動く標的』以降、私立探偵リ्यू・アーチャーを登場させ、ハメット、チャンドラーと並ぶハードボイルド派の巨匠と目され、現代アメリカ・ミステリ界を代表する作家の一人となった。本書はロス・マクドナルド名義での第一作であり、創元推理文庫創刊第一弾の一冊でもある。1983年歿。	

33	『 <b>幸運すぎて埋められる</b> 』 <div><b>Last Orders</b></div>	創元推理文庫
	クイーム・マクドネル	青木 悦子 訳
	ポール、ブリジット、バニーが設立した〈MCM探偵事務所〉は窮地に陥っていた。ポールが別の探偵事務所と揉めているうえ、バニーが浮気調査の対象者への暴力行為で訴えられたのだ。ブリジットは連絡が取れなくなった彼を探す、バニーは警察が山中で二体の死体を発見したという報道を知って動揺していた。それはかつて、彼が相棒の刑事と一緒に埋めた死体だった……。ノンストップ・サスペンス『平凡すぎて殺される』シリーズ完結編！	
	著者紹介：アイルランドのリムリック生まれ、ダブリン育ち。小説家、TVの放送作家、コメディアン。小説家としては全5作の〈ダブリン三部作（トリロジー）〉シリーズ、〈バニー・マガリー〉シリーズなど、ダブリンやマンチェスターを舞台にしたミステリや犯罪小説を執筆している。『平凡すぎて殺される』は2017年に、アイルランドのインディペンデント出版を奨励するCAPアワードの最優秀長編小説部門にノミネートされた。続編に『有名すぎて尾行ができない』、前日譚に『悪人すぎて憎めない』がある。	

34	<b>Head Cases</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
ジョン・マクマホン	高山 祥子 訳	夏
FBI捜査官ガードナーは、他殺体の身元確認のためテキサスを訪ねていた。殺された男はロス・ティグノン。七年前、ガードナーが担当した連続殺人事件で犯人と目されたが、逮捕寸前に自宅の火災で焼死したはずの男だ。死んだはずの男が、なぜまた死体となって現れたのか？ 黙考するガードナーのもとへ新たに事件の一報が入る。かつて連続殺人を起こし、服役ののちに仮釈放されたばかりの男が殺されたのだ。かくして事件は「連続殺人犯を狙う連続殺人」の様相を帯び――。アメリカ探偵作家クラブ賞最終候補作家が放つ、圧巻の警察ミステリ！		
著者紹介：アメリカの作家。広告代理店のディレクターを経て『刑事失格』でデビュー。同作はアメリカ探偵作家クラブ賞最優秀新人賞の最終候補にノミネートされた。2025年、新シリーズの第一作となるHead Casesを刊行。		

35	<b>『回転木馬』</b> ※ <b>仮題</b> <div><b>The Midnight Carousel</b></div>	創元推理文庫
フィザ・サイド・マククリーン	森嶋 マリ 訳	年内
二十世紀初頭。家族を亡くし、イギリスからアメリカへ移住してきたばかりの少女メイジーは、鉄道駅で懐かしい回転木馬を目にする。それはかつて訪れた遊園地にあったもので、彼女と同様に海を渡ってきたらしい。メイジーの身寄りである男爵はそれを買いとり、屋敷の庭に設営して人々を招いた。しかし白昼、木馬に乗った少年が衆人環視下で煙のように消えてしまう――。世界を旅するミステリアスな回転木馬。孤独に育ち、異国を生きる女性。ふたつの歴史がまじわるとき、心震える結末が待つ。新人離れた筆致で紡がれる謎物語。		
著者紹介：カラチ出身の作家。パキスタン人の父とイギリス人の母のあいだに生まれ、その後ロンドンに移住。オックスフォード大学で歴史学を学び、金融業界でキャリアを積む。その後12年間にわたり、遺族を対象とする補完療法士として活動。The Midnight Carouselが第一作となる。		

36	<b>『時計職人の娘』</b> ※ <b>仮題</b> <div><b>The Clockmaker's Daughter</b></div>	四六判並製
ケイト・モートン	務台 夏子 訳	夏
150年ほど前に起きた著名な画家のフィアンセ殺害事件と、モデル失踪事件を発端とする物語。舞台はオックスフォードシャーのある画家の館バーチウッド領主館。フィアンセの殺害事件の真相は？ 失踪したモデルはその後どうなったのか？ 2017年、ヴィクトリア朝時代の社会改革家の遺した書簡や資料を整理する仕事についている女性は、彼の遺品のなかから見つけたスケッチブックに、昔、母親から聞いたお話に出てくるとそっくりの家の絵を見つけ、150年前の事件に関わっていく……。『忘れられた花園』『秘密』のケイト・モートンらしい素晴らしい一冊。		
著者紹介：1976年、南オーストラリア州ペリに三人姉妹の長女として生まれる。クイーンズランド大学で舞台芸術とイギリス文学を修めた。夫と三人の息子とともに、ロンドン在住。2006年に『リヴァトン館』で作家デビュー。他に『忘れられた花園』、『秘密』、“The Distant Hours”、『湖畔荘』がある。		

37	<b>Murder at the White Palace（ロンドン謎解き結婚相談所 6）</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
アリスン・モントクレア	山田 久美子 訳	冬
1946年12月。元スパイのアイリスと上流階級出身のグウェンが経営する〈ライト・ソート結婚相談所〉は年越しのダンス・パーティを企画していた。会場の下見のために改修工事中の元クラブを訪れると、煉瓦の壁が崩れて、干からびた人間の手が露出した。警察が現場に駆けつけ、死体は刺殺された男性だと判明した。1920年代ごろの殺人事件と推測され緊急性はないものの、建物はアイリスの恋人でギャングスターのアーチャーが所有しており、彼を疑って捜査するのはアイリスの元婚約者で……。仕事に恋愛に事件の謎解きに大忙しの大人気シリーズ第6弾！		
著者紹介：アガサ・クリスティのペーパーバックと、ジェームズ・ボンドものの映画にのめりこんで育った結果、犯罪小説やスパイ小説に夢中になり、現在は史実の謎めいた断片から着想を得て小説を執筆している。2019年に『ロンドン謎解き結婚相談所』でデビュー。続編の『王女に捧ぐ身辺調査』『疑惑の入会者』『ワインレッドの追跡者』『奇妙な花嫁候補』、Murder at the White Palace、An Excellent Thing in a Womanが刊行されている。		

38	<b>Die Hornisse</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
マルク・ラーベ	酒寄 進一 訳	初夏
ロックスター、ブラッド・ギャロウェイのライブがベルリンで開催された。その最中、女性がステージで彼に謎の封筒を手渡した。その中のアルミケースには、凝固した血の上に小さな白い羽根が載っていた……。翌日の夕方、ブラッドの血だらけの遺体が警察のゲストハウスで発見される。胸には`愛する者の命は大事か？、というメッセージが。刑事トム・バビロンは臨床心理士のジータと共に捜査を始めるが……。『17の鍵』『19号室』の刑事トム・バビロン・シリーズ第3弾！		
著者紹介：ドイツ、ケルン生まれ。10代で仲間と映像を撮りはじめ、大学入学前に映像制作会社を設立。大学では演劇・映画・テレビ学とドイツ文学を専攻するものの、会社経営に専念するために中退した。2012年にSchnittを刊行して作家デビュー。同作は〈シュビーゲル〉のベストセラーリストに数週間にわたって掲載された。2018年に刊行した「刑事トム・バビロン・シリーズ」第1作『17の鍵』が大ベストセラーとなる。全4作の同シリーズは、本国で累計発行部数が43万部を超える人気を得た。ケルン在住。		

39	<b>Angel Baby</b> ※ <b>原題</b>	創元推理文庫
リチャード・ラング	吉野 弘人 訳	冬
ルスはメキシコのギャング組織のボス、ロランドの妻だ。だが妻とは名ばかりで、かつてはロランドが敵対する組織のリーダーの愛人だった。抗争の果てに、彼の自宅に監禁されている。ルスはロランドの元から逃げ、娘を迎えにいく計画を実行する。銃と金庫の中の金を持ち、不法入国を取り仕切る男の手を借りてアメリカへと逃げようとする。だがロランドが見逃すはずもなく、始末屋のジェロニモに連れ戻すように命令する。ジェロニモは妻と娘を人質にされ、銃を抱えてルスを追う。――あらゆる手を使い逃げる女。家族の命を救うために追う男。激しく強く容赦のない、鋭い文章で紡がれるスリルに満ちた逃走／追跡劇！ 2023年ハメット賞受賞作。		
著者紹介：アメリカ、カリフォルニア州オークランド出身。2008年にデビュー短編集Dead Boysを刊行した。Angel Baby（2013）で同年のハメット賞を受賞。2015年、短編集『彼女は水曜日に死んだ』（2015）に収録されている「聖書外典」と「甘いささやき」が、2作同時に英国推理作家協会（CWA）賞最優秀短編賞の最終候補に選ばれ、「聖書外典」が受賞するという快挙を成し遂げた。同書所収の「ベイビー・キラー」はアンソロジー『ベスト・アメリカン・短編ミステリ2012』の収録作に選ばれている。『彼女は水曜日に死んだ』は第14回翻訳ミステリー大賞を受賞した。		

40	『 <b>孤独な夜</b> 』※ <b>仮題</b> <b>Einsame Nacht</b>	創元推理文庫
	シャルロット・リンク	浅井 晶子 訳
	ケイトは北ヨークシャー警察を辞めたケイレブの後任として着任した、厳しい女性上司のもと、新たな事件に巻き込まれる。事件とは、ケイトが勇気を出して申し込んだ婚活会社に、やはり登録していた女性が殺され、現場から見つかった指紋が九年前のある少年をめぐる事件現場に残されていた指紋と同じだったというものだった。その事件を担当していたのがケイレブと知り、ケイトは彼のもとを訪ねる。いじめられていた少年はその事件がもとで植物状態となっていた。複雑な人間関係、いじめ、執着……。そしてケイトとケイレブの関係はどうなっていくのか？ ケイト・リンヴィル・シリーズの展開の見事に読者は嘆息すること間違いなし。	夏
	著者紹介：1963年ドイツのフランクフルト生まれ。大学進学前、19歳で歴史小説家としてデビュー。大学では法学を学ぶ。1999年刊行の『姉妹の家』で初めて「シュピーゲル」誌のベストセラー・リストに。以後、今日までベストセラーを連発し、国民的作家として活躍を続けている。推理文庫の既刊として『沈黙の果て』、『失踪者』、とケイト・リンヴィル。シリーズの『裏切り』、『誘拐犯』、『罪なくして』がある。	

41	『 <b>Mayors of New York</b> 』※ <b>原題</b>	創元推理文庫
	S・J・ローザン	直良 和美 訳
	ニューヨーク初の女性市長であるマッキャンの息子、15歳のマークが失踪した。折悪しく市と警察が給与改定の交渉中であるという微妙な状況を勘案して、市長の右腕オーブリーが内々に捜索を依頼したのは、私立探偵ビル・スミスだった（オーブリーはビルの元恋人なのだ）。ビルと相棒のリディア・チンはわずかな手がかりをもとにマークを発見するも、何者かの襲撃を受けて少年に逃げられてしまう。どうやらマークは何かを調べているようで……ニューヨークを舞台に、ティーンエイジャーの失踪というありふれた事件を発端に名コンビが巨悪と対峙する、現代ハードボイルド／私立探偵小説の金字塔シリーズ最新作。	秋
	著者紹介：アメリカの作家。1950年生まれ。様々な職業を経て、90年頃から書き始めたミステリで、ふたりの私立探偵、中国系女性のリディア・チンと白人男性のビル・スミスを生み出し、94年に発表した『チャイナタウン』を第一作とする長編や多くの中短編で活躍させている。『ピアノ・ソナタ』『天を映す早瀬』でシェイマス賞、『どこよりも冷たいところ』でアンソニー賞、『冬そして夜』でMWA（アメリカ探偵作家クラブ）最優秀長編賞を、「ペテン師ディランシー」でMWA最優秀短編賞を受賞するなど、現代を代表する私立探偵小説の書き手として高く評価されている。	

	『 <b>流星と桜</b> 』	四六判並製
	青谷 真末（あおや・まみ）	3月
	女子高時代に孤独な桜子を照らしてくれた、憧れの先輩で歌舞伎役者の娘・清香。真昼でもなお輝きを失わない流星のようだったその人は、8年ぶりに浅草で偶然再会した時、探偵となっていた。清香は、ある過去の出来事から鬱屈を抱える桜子の悩みを見抜き、自身の経営する探偵事務所で助手として働かないかと誘う。桜子は清香の元で働くことになるが、やってくる依頼人の相談事は「歌舞伎座に芝居を見に行った帰りに、必ず誰かに跡をつけられるんです」など、なぜか清香の愛する歌舞伎の演目を連想するような、奇妙な謎ばかりで……。歌舞伎に見立てられた人の心の謎解きと女性たちの成長を描く、傑作ミステリ。	
	著者紹介：2012年、『花の魔女』で第2回ポプラ社小説新人賞・特別賞を受賞し、『鹿乃江さんの左手』と改題しデビュー。主な著作に『ショパンの心臓』『君の嘘と、やさしい死神』『アンドロイドの恋なんて、おとぎ話みたいってあなたは笑う?』『もうヒグラシの声は聞こえない』『読書嫌いのための図書室内』『水野瀬高校放送部の四つの声』『ステイ！ ほくとシェパードの5カ月の戦い』などがある。	

43	『 <b>僕たちの青春と君だけが見た謎</b> 』	四六判仮フランス装
	雨井 湖音（あまい・こおと）	2月
	長い夏休みを終えた青崎架月は、老人ホームでの現場実習に参加した。その後2学期最大のイベントである学園祭の準備が進む中、架月のもとには同級生からも先輩からも、様々な謎がもちこまれる――。まずは、部活の先輩が学園祭で展示するために描いた漫画に対する不可解なダメ出し。続いて、3年生の「警察」と言われる先輩も出動することになった新聞消失事件。さらに、同級生が学園祭のボイコットをはじめた理由探しなど、僕たちの「特別な青春」はまだまだ続く。『僕たちの青春はちょっとだけ特別』に連なる待望のシリーズ第2弾。	
	著者紹介：1996年宮城県生まれ。宮城県在住。宮城教育大卒。現在、高等支援学校の職員として働く傍ら、ミステリ小説の執筆を行う。「東京創元社×カクヨム 学園ミステリ大賞」に投じた『僕たちの青春はちょっとだけ特別』で大賞を受賞し、2024年にデビュー。瑞々しい筆致で描かれた爽やかなミステリとして、各方面で話題となる。	

44	『 <b>ヴァンプドッグは叫ばない</b> 』【文庫版】	創元推理文庫
	市川 憂人（いちかわ・ゆうと）	夏
	U国MD州で現金輸送車襲撃事件が発生。襲撃犯一味のワゴン車が乗り捨てられていたのは、遠く離れたA州だった。応援要請を受け、マリアと漣は州都フェニックス市へ向かう。警察と軍の検問や空からの監視が行われる市内。だがその真の理由は、研究所から脱走した、20年以上前に連続殺人を犯した男『ヴァンプドッグ』を捕らえるためだった。しかし、『ヴァンプドッグ』の過去の手口と同様の殺人が次々と起きてしまう。一方、フェニックス市内の隠れ家に潜伏していた襲撃犯五人は、厳重な警戒態勢のため身動きが取れずにいたが、仲間の一人が邸内で殺されて…！？ マリアと漣が挑む史上最大の難事件！ 大人気シリーズ第5弾、待望の文庫化。	
	著者紹介：1976年神奈川県生まれ。東京大学卒。在学時は文芸サークル・東京大学新月お茶の会に所属。2016年、『ジェリーフ イッシュは凍らない』で第26回鮎川哲也賞を受賞しデビュー。同作は各種年末ミステリベストにランクインし、話題を呼んだ。他の著書に『ブルーローズは眠らない』『グラスバードは還らない』『ボーンヤードは語らない』『神とさざなみの密室』『灰かぶりの夕海』『牢獄学舎の殺人 未完図書委員会の事件簿』『もつれ星は最果ての夢を見る』などがある。	

45	<b>『探偵物語』</b>	創元推理文庫
	小鷹 信光（こだか・のぶみつ）	2月
	「私立探偵の工藤俊作さんだね？」――受話器の向こうから響く声は低く、威圧がこもっていた。電話の内容は、失踪した十七歳の少女の捜索依頼。四日間の期限付きという奇妙な条件ではあるものの高額成功報酬に、工藤俊作は依頼を引き受ける。だが調査を始めて間もなく、少女を誘拐したという何者かの脅迫電話を端緒に、事件は様相を変える。錯綜した人間関係を手繰る先に探偵を待ち受ける苦い真実。同名の名作ドラマ原案者にしてハードボイルドの泰斗が書いた、私立探偵・工藤俊作もうひとつの探偵物語。	
	著者紹介：1936年岐阜県生まれ。早稲田大学文学部英文科卒。70年に〈ミステリマガジン〉で始めた連載「Hパイラスの舟」を端緒に数々のエッセイでアメリカ探偵小説を紹介するとともに、ハードボイルドの古典的名作から“ネオ・ハードボイルド”作品群まで多数翻訳。またテレビドラマ『探偵物語』では原案ならびに小説版を手掛け、私立探偵・工藤俊作は国産ハードボイルドの代名詞的存在となる。2007年『私のハードボイルド　固茹で玉子の戦後史』で第60回日本推理作家協会賞を受賞。15年没。	

46	<b>『赤き馬の使者　探偵物語Ⅱ』</b>	創元推理文庫
	小鷹 信光（こだか・のぶみつ）	4月
	北海道の田舎町に暮らす男を対象とした素行調査は、依頼人が匿名であることを除けば簡単な仕事で、これといった問題もなく終わる筈だった。ところが、調査から帰ってきた札幌のホテルで、私立探偵・工藤俊作は何者かに襲われる。気絶する間に襲撃者のひとりには確かに言った、他人事に首をつっこむな、と。病室で意識を取り戻した探偵は、傷を負ったまま調査地・鹿射に戻る。この探偵行が、同時に彼の暗い過去を掘り起こさせることになるとも知らずに――。工藤俊作自身の事件とも言うべき屈指の傑作長編。	

47	<b>『ねむりねずみ』【新装版】</b>	創元推理文庫
	近藤 史恵（こんどう・ふみえ）	2月
	「ことばが、頭から消えていくんだ」若手歌舞伎役者の中村銀弥は、役者生命を奪いかねない症状に苦しんでいた。その妻・一子は後ろめたさを抱えながら、夫を気遣うことしかできない。二ヶ月前、銀弥の亭主役を務める花形役者の婚約者が不可解な死を遂げた。上演中の劇場内で殺されたのだ。事件を調べ始めた大部屋役者の瀬川小菊とその友人・今泉文吾は、いかなる真相に辿り着くのか。歌舞伎ミステリの傑作、新装版で登場。	
	著者紹介：1969年大阪市生まれ。大阪芸術大学文芸学科卒業。93年に『凍える島』で第4回鮎川哲也賞を受賞しデビュー。2008年に『サクリフェイス』で第10回大藪春彦賞を受賞。人間心理の機微を描く筆力の見事さには定評がある。著書に『ガーデン』『ねむりねずみ』の他、『タルト・タタンの夢』にはじまる〈ピストロ・パ・マル〉シリーズ、『それでも旅に出るカフェ』『ホテル・カイザリン』『山の上の家事学校』『風待荘へようこそ』『オーロラが見られなくても』など多数。	

48	<b>『百花斉放アノマリー　前崎中央高校科学部の事件ファイル2』</b>	創元推理文庫
	下村 智恵理（しもむら・ちえり）	4月
	前崎中央高校に入学した利根和奏は、新入生向けの部活紹介で、壇上で異彩を放つ金髪ギャルの先輩の姿に釘付けとなった。あろうことかその先輩は、「犯罪と見なされない形で行われる、人為的な食中毒」について滔々と話し始めた！　先輩の言動に興味を惹かれ、科学部に加わった和奏は、一年生の間で広がる校舎裏の石碑の奇妙な噂についての調査を提案。男子校出身の安井良をはじめ、お馴染みのメンバーも加わった調査は、思わぬ結果が判明し……。〈中央高校科学部〉シリーズ第2弾。	
	著者紹介：　1987年生まれ。千葉大学大学院医学薬学府総合薬品科学専攻修了。『エンド・アステリズム　なぜその機械と少年は彼女が不動で、宇宙の中心であると考えたか』で、第11回スーパーダッシュ小説新人賞優秀賞受賞。『天網恢々アルケミー』で「東京創元社×カクコム　学園ミステリ大賞」優秀賞を受賞。	

49	<b>タイトル未定</b>	四六判単行本
	谷 夏読（たに・なつとう）	春
	新潟の高校に通う刑部歩は、生徒会に参加するもののオタクの陰キャキャラを自認している。ところが五月のある日、クラスに金髪ギャルの装いの転校生がやって来て、生活は一変した。彼女は歩が輝いていた小学生時代を知っており、しきりに消えた目安箱の謎など校内の事件を解こうと誘ってくる。『この恋だけは推理（わか）らない』でデビューを飾った著者が贈る、青春の甘酸っぱさを描いた第二作。	
	著者紹介：1984年新潟県生まれ。東京都在住。会社員として働きながら、執筆活動が続けている。『この恋だけは推理らない』を「東京創元社×カクコム　学園ミステリ大賞」に投じ、大賞を受賞する。	

50	<b>『その火を消し止めて』 ※仮題</b>	四六判単行本
	辻堂 ゆめ（つじどう・ゆめ）	夏
	15年前に起き、世間を震撼させた産院放火殺人事件。その被害者遺族の男性三名が一斉に連れ去られた。通報を受けた刑事たちが捜査の末、誘拐・監禁容疑で逮捕したのは、産院放火殺人事件を起こした犯人の息子で……。『トリカゴ』で活躍した刑事・里穂子と捜査一課の羽山が、再びコンビを組み新たな難事件に挑む。被害者遺族と加害者家族の人生を真摯に描く、辻堂ミステリ新たな傑作。	
	著者紹介：1992年神奈川県生まれ。東京大学卒。2014年『夢のトビラは泉の中に』が第13回『このミステリーがすごい!』大賞優秀賞に選ばれ、翌年同作を改題した『いなくなった私へ』でデビュー。21年、『十の輪をくぐる』で第42回吉川英治文学新人賞候補となる。22年、『トリカゴ』で第24回大藪春彦賞を受賞。他の著書に『あの日の交換日記』『答えは市役所3階に2020心の相談室』『二人目の私が夜歩く』『ダブルマザー』『今日未明』などがある。	

51	<b>『新学期にだけ見える星座』</b>	創元推理文庫
	似鳥 鶏（にたどり・けい）	発売中
	茶道華道部の活動場所である作法室で、誰もいなかったはずなのに壺が割れた「さまようツボ」事件。これが市立（いちりつ）高校に入学したばかりの俺・中内修太郎が出合った最初の事件だった。美術部の三年生・葉山先輩は、手慣れた様子で調べ始め……!?　他に幼馴染みの岩境ひなが巻き込まれた、男子バスケ部の部室での奇妙な盗難事件など、市立高校内外での事件と謎を巡る、シリーズ最新刊。	
	著者紹介：1981年千葉県生まれ。2006年『理由（わけ）あって冬に出る』で第16回鮎川哲也賞に佳作入選、改稿した同作でデビュー。続編の『さよならの次にくる〈卒業式編〉』などとともに〈市立（いちりつ）高校シリーズ〉として人気を博す。その他のシリーズに〈楓ヶ丘動物園シリーズ〉〈戦力外捜査官シリーズ〉〈御子柴シリーズ〉〈喫茶プリエールシリーズ〉〈育休刑事（デカ）シリーズ〉がある。	

52	<b>『歌人探偵定家　百人一首推理抄　弐』 ※仮題</b>	四六判並製
	羽生 飛鳥（はにゅう・あすか）	春
	1187年。平家一門の生き残り・平保盛は、去年鎌倉から帰ってきた静御前の乗った牛車と行き会う。「かつての恋人であり、現在は兄・頼朝との確執から行方をくらませている源義経や、その残党の首実検を暇つぶしに日々行っている」と語る、冷淡な彼女の態度に面食らうも、心惹かれるのを抑えきれない。一方、後白河院の命を受け、藤原俊成が編纂してきた勅撰和歌集の完成がいよいよ迫ってきた。多忙な父の手伝いに、新進気鋭の歌人・定家も駆り出されていた。そんな二人の元を、ある日保盛が訪れるが、俊成邸の門前で、脇腹に卒塔婆が貫通している若者の屍を発見してしまう。卒塔婆には「夜をこめて　鳥のそら音ははかるとも　よに逢坂の関はゆるさじ」という清少納言の和歌が書かれていた。和歌が汚されたと激昂した定家は、下手人を探すべく謎解きを開始するが……。藤原定家が、名歌の絡んだ五つの謎を解くシリーズ第2弾！	
	著者紹介：1982年神奈川県生まれ。上智大学卒。2018年「屍実盛（かばねざねもり）」で第15回ミステリーズ！新人賞を受賞。2021年同作を収録した『蝶として死す　平家物語推理抄』でデビュー。同年、同作は第4回細谷正充賞を受賞した。他の著作に『揺籃の都　平家物語推理抄』『『吾妻鏡』にみる　ここがヘンだよ！鎌倉武士』『賊徒、暁に千里を奔る』『女人太平記』がある。また、児童文学作家としても活躍している（齊藤飛鳥名義）。	

53	『 <b>東川篤哉独立短編集</b> 』※ <b>仮題</b>	四六判単行本
	東川 篤哉（ひがしがわ・とくや）	夏
	容疑者は四人、あなたは真相を（完全に）見抜けるか？ 著者初の犯人当て小説——「アリバイのある容疑者たち」、雪の降り積もる屋敷で女優が企む殺害計画、そのためには密室をつくらなければ——「暮林紅子の誤算」など、意外なトリックと明解な口ジツクの妙が味わえる全五編。密室、アリバイ、倒叙、犯人当てなど、本格ミステリの精髓が堪能できる、著者初の独立短編集。	
	著者紹介：1968年広島県生まれ。岡山大学卒。鮎川哲也編集長による公募アンソロジー『本格推理』への投稿・入選を経て、2002年〈KAPPA-ONE〉第一期生として『密室の鍵貸します』でデビュー。『謎解きはディナーのあとで』で本屋大賞を受賞する。主な著書に〈烏賊川市〉シリーズのほか『館島』『仕掛島』『放課後はミステリーとともに』『魔法使いは完全犯罪の夢を見るか?』がある。	

54	『 <b>ぼくらは回収しない</b> 』【 <b>文庫版</b> 】	創元推理文庫
	真門 浩平（まもん・こうへい）	夏
	数十年に一度の日食が起きた日、名門大学の学生寮で女子学生が亡くなった。密室状態の現場から自殺と考えられたが、小説家としても活躍し、才気溢れた彼女が死を選ぶだろうか？ 三年間をともに過ごしながら、孤高の存在だった彼女と理解し合えないまま二度と会えなくなったことに思い至った寮生たちは、独自に事件を調べ始める——。第十九回ミステリーズ！新人賞受賞作「ルナティック・レトリバー」を含む五編を収録。大胆なトリックと繊細な心理描写で注目を集め、新人賞二冠を達成した新鋭による独立作品集。	
	著者紹介：1999年アメリカ生まれ。東京大学大学院修了。中学時代にミステリーズ！新人賞への応募を始め、2022年に投じた「ルナティック・レトリバー」で、名称変更前の最後（第19回）の機会に同賞を受賞。23年には「麻坂家の双子喧嘩」が、新人発掘プロジェクト「カップ・ツー」第三期に入選した（刊行に際し、『バイバイ、サンタクロース 麻坂家の双子探偵』と改題）、期待の俊英。	

55	『 <b>夢落ち</b> 』※ <b>仮題</b>	四六判仮フランス装（ミステリ・フロンティア）
	真門 浩平（まもん・こうへい）	夏
	夢を操作できれば、現実もよい方向に変わる——仕事のストレスに悩む大野由佳は、向井という男性から「明晰夢」を見る方法を学ぶことになった。疑いつつも教えを实践した大野は、夢の中で思い通りの行動をとることで、日々の生活を向上させることに成功する。数ヶ月後、向井の教え子たちが集まって勉強会を開催中、滞在先のコテージで殺人事件が発生する。大野は明晰夢の中で見た本に、犯人の名前が書いてあることに気づき……。鮮烈なデビューを飾った俊英、オリジナル短編集第二弾。	

56	『 <b>夢見る言葉 デフ・ヴォイス</b> 』	四六判仮フランス装
	丸山 正樹（まるやま・まさき）	初夏
	手話通訳士を父にもつろう児の荒井瞳美は、近隣の特別支援学校に通うことが決まった。一方、姉の美和は、受験勉強の末に幼馴染みの漆原英知とともに、私立の進学高校に進み、部活に力を注ぎながら進路と英知との関係に悩む日々。そんなある日、瞳美の通う特別支援学校で、大きなトラブルが巻き起こり、前代未聞の裁判に荒井家は巻き込まれてゆく——。〈デフ・ヴォイス〉シリーズ堂々の完結編。	
	著者紹介：1961年東京都生まれ。早稲田大学卒。シナリオライターとして活躍ののち、松本清張賞に投じた『デフ・ヴォイス』でデビュー。同作は書評サイト「読書メーター」で話題となり、シリーズ第二弾『龍の耳を君に』、第三弾『慟哭は聴こえない』、第四弾『わたしのいないテーブルで』、シリーズスピンオフ『刑事何森 孤高の相貌』『刑事何森 逃走の行先』なども好評を博す。2021年『ワンダフル・ライフ』で読書メーター OF THE YEAR 2021に選ばれる。2022年『龍の耳を君に』が第17回酒飲み書店員大賞を受賞。他の著作に『漂う子』『ウェルカム・ホーム!』『キッズ・アー・オールライト』『夫よ、死んでくれないか』『青い鳥、飛んだ』などがある。	

57	『 <b>金色の彼方</b> 』※ <b>仮題</b>	四六判仮フランス装（ミステリ・フロンティア）
	大和 浩則（やまと・ひろのり）	年内
	老いや病に苦しみながら長い“人生の最期”を生きる人々、それを見守る家族、そしてかれらを支える介護福祉士やケアワーカー——介護福祉の現場では、いつも静かに、けれども確実に何かが起きる。三者の感情や思惑が絡みあった五つの謎を、市役所の介護福祉課職員である青年・小紀研は絶えず逡巡を繰り返しながら、冷静に解き明かしていく。第17回ミステリーズ！新人賞受賞作を含む、介護福祉の現場で起きる〈日常の謎〉を新人離れした筆致と構成で描く瞠目のデビュー作品集。	
	著者紹介：1968年静岡県生まれ。早稲田大学卒。2020年『囁む老人』で第17回ミステリーズ！新人賞を受賞。受賞作を収録する本書がデビュー作となる。	

58	『 <b>倫敦（ロンドン）スコーンの謎</b> 』	創元推理文庫
	米澤 穂信（よねざわ・ほのぶ）	4月
	「なあ常悟朗。お前に頼んでいいことなのかどうかどうかわからないんだが……小佐内を紹介してくれないか？」堂島健吾曰く、かつて絵の謎を解いた（ことになっている）小佐内さんに、もう一度知恵を借りたいのだという。——美術家の縞大我が、サンフランシスコ・ビエンナーレの黒熊賞を受賞した。健吾は地元のテレビ局に頼まれ学内を搜索、彼の在校時代の作品を発見するが、その作品は模写でありながら展覧会に出品された事実も掘り起こしてしまったのだ。果たしてこの作品は盗作か否か？ 小市民を目指す小鳩君と小佐内さんの謎解きの日々。大人気シリーズ、待望の第二作品集。四編を収録。	
	著者紹介：1978年岐阜県生まれ。2001年、『氷菓』で第5回角川学園小説大賞奨励賞（ヤングミステリー&ホラー部門）を受賞してデビュー。青春小説としての魅力と謎解きの面白さを兼ね備えた作風で注目され、『春期限定いちごタルト事件』などの作品で人気作家としての地位を確立する。11年に『折れた竜骨』で第64回日本推理作家協会賞、14年『満願』で第27回山本周五郎賞、21年『黒牢城』で第12回山田風太郎賞、翌年には同作品で第166回直木賞を受賞。ほかの著書に『さよなら妖精』『犬はどこだ』『王とサーカス』『真実の10メートル手前』『追想五断章』『リカーシブル』『本と鍵の季節』『可燃物』『米澤屋書店』などがある。	

59	『 <b>意外な犯人 犯人当て小説傑作選</b> 』	創元推理文庫
	綾辻 行人（あやつじ・ゆきと）他／福井 健太（ふくい・けんた）編	2月
	ミステリ作家たちが工夫を凝らし、読者と頭脳戦を繰り広げる犯人当て小説。その傑作の数々から“読者への挑戦”ものを中心に精選し、全3巻のアンソロジーに集成した。第3巻には、原案を書いた筈が記憶にない推理ドラマにミステリ作家が挑む綾辻行人「意外な犯人」、地図の上で殺された男のメッセージを解読する辻真先「DMがいっぱい」、暗殺者の正体をロジカルに推理する井上夢人「殺人トーナメント」など全9篇を収録。	
	編者紹介：1972年京都府生まれ。書評家。早稲田大学第一文学部卒。在学中はワセダミステリクラブに所属。2013年、『本格ミステリ鑑賞術』で第13回本格ミステリ大賞【評論・研究部門】を受賞。著書に『本格ミステリ漫画ゼミ』、編書に『SFマンガ傑作選』などがある。	

## ファンタジイ & ホラー Lineup for 2026 : Fantasies and Horrors

60

『 <b>書籍検閲官の図書館</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>The Book Censor's Library</b>		四六判仮フランス装 (創元海外 SF 叢書)
ポセイナ・アル=エツサ	佐田 千織 訳	冬
【全米図書賞翻訳部門・全米翻訳賞最終候補】〈革命〉ののち、幸せな世界を実現するため、人間の欲望を空にすることが求められた。そのために、想像力を刺激する作品や、革命以前の世界にまつわるすべての作品は焚書の対象となった。そんなある朝、目を覚ました書籍検閲官は、自分が読書家に変身していることに気づき……クウェート発の傑作幻想小説。		
著者紹介：1982年クウェート生まれの作家、出版者。クウェート大学卒業。アラビア語で小説を発表している。2021年、The Book Censor's LibraryでSharjah Award for Arab Creativityを受賞。同書の英訳版（Ranya AbdelrahmanとSawad Hussainによる）が2024年全米図書賞翻訳部門と2025年全米翻訳賞の最終候補になる。		

61

『 <b>冥府行</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>Katabasis</b>		四六判 (海外文学セレクション)
R・F・クァン	古沢 嘉通 訳	年内
ケンブリッジ大学分析魔法学部の大学院生アリスは、不注意で指導教授グライムズを殺してしまう。事故死として処理されたが、指導教授がいけないとよい就職ができないので、アリスは地獄に下りて行って教授を見つけ、生き返らせねばならない。アリスは同じく教授の指導学生であるピーターとともに、教授を探して一緒に地獄を旅することになる……『バベル』の著者が放つ最新作！		
著者紹介：1996年中国・広東省広州市生まれ。4歳の頃にアメリカに移住。ケンブリッジ大学で中国研究の修士号を、オックスフォード大学で現代中国研究の修士号を取得。2018年のデビュー長編The Poppy Warでコンプトン・クルック賞を受賞。2022年の長編『バベル オックスフォード翻訳家革命秘史』でネビュラ賞長編部門とローカス賞ファンタジー長編部門を受賞。同書は2024年の中国・華語科幻星雲賞翻訳部門、百万釣魚城科幻大賞国際小説部門も受賞した（陳陽訳）。		

62

『 <b>イーディス・ハラール</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>Edith Holler</b>		四六判上製
エドワード・ケアリー	古屋 美登里 訳	夏
語り手の「わたし」はノリッジの町に住む12歳の少女、イーディス。病弱で家の外に出られないので、毎日ベッドから外を見ている。イーディスが住んでいるのは曾祖父の名声で有名になったホラー劇場。イーディスの父で劇場主のエドガーが、4回目の再婚した相手は、悪徳商人として知られるアッティングの娘だった。劇場の資金援助のための結婚。イーディスは継母になじめずにいた。実はイーディスは劇場と結びついていて、彼女が一度でも出たら劇場は崩壊すると言われていた。ところが、継母はなんとかしてイーディスを外に連れ出そうとする。父と継母の結婚で部屋を奪われ、地下の台所のそばに追いやられるイーディス。なんと父も行方不明になってしまったのだ。著者による挿絵多数。		
著者紹介：1970年にイングランド東部のノーフォーク州で生まれる。これまでに『望楼館追想』（2000）、『アルヴァとイルヴァ』（2003）、〈アイアマンガー三部作〉（2013, 2014, 2015）、『おちび』（2018）、『呑み込まれた男』（2020）、『飢渴の人』（2021）、スケッチ集『B：鉛筆と私の500日』（2021）を発表。イラストレーター、彫塑家としても国際的に活躍。現在はアメリカ合衆国テキサス州で妻と子供ふたりと暮らしている。妻はアメリカの作家エリザベス・マクラッケン。		

63

『 <b>魔法治療師のティーショップ パン職人の秘密</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>Bread and Burglary</b>		創元推理文庫
シャンナ・スウェンドソン	今泉 敦子 訳	3月
パン職人ルーシーは、今日も夜明け前からパンを焼いていた。窯の準備をし、生地を成形し発酵させる。パンをつくるときは常に優しい気持ちで心を満たすようにする。それが祖母の教えだった。祖国の動乱を逃れて、リディング村でパン屋を営むようになって、いまだに悪夢に怯える夜が続いている。そんななか村の鍛冶屋の見習いとしてやってきたニコが同郷だとわかり、ルーシーは激しく動揺する。彼は追っ手？ その矢先、村で頻発する謎の盗難事件の容疑が新入りのニコにかかり……。《（株）魔法製作所》の著者が贈る、お茶と謎のコージーファンタジイ。		
著者紹介：米国テキサス生まれのテキサス育ち。大学卒業後いったんは広報の仕事に就くものの、作家の夢を諦めきれず執筆を続け、〈（株）魔法製作所〉シリーズで人気に。他に〈フェアリーテイル〉シリーズなども翻訳刊行されている。		

64

『 <b>千の目が光る森</b> 』 <b>The Forest of a Thousand Eyes</b>		四六判上製
フランシス・ハーディング エミリー・グラヴェット 絵	児玉 敦子 訳	2月
〈森〉に侵略され〈壁〉の中だけに人が暮らしている世界。〈壁〉の一部〈灰色男の門〉に住むフェザーは、冒険心にあふれた少女だった。だが〈森〉で出会って外の話をしてくれた〈よそ者〉に手ひどく裏切られ、望遠鏡を盗まれたうえに崖から突き落とされてしまった。望遠鏡は〈灰色男の門〉集落の大切なものだ、このままではみんなのもとに戻れない。ペットのフェレットだけを連れてフェザーは、〈よそ者〉を追ってひとり危険でいっぱい森に踏み入った。コスタ賞受賞作『嘘の木』の著者がケイト・グリーンナウェイ賞受賞の著者とタッグを組んだ豪華なYAファンタジイ第2弾。		
著者紹介：フランシス・ハーディング＝英国ケント州生まれ。オックスフォード大学卒業後、2005年に発表したデビュー作Fly By Nightでブランフォード・ボウズ賞を受賞、2014年の『カッコーの歌』では英国幻想文学大賞を受賞した。2015年には7作目にあたる『嘘の木』でコスタ賞（旧ウィットブレッド賞）の児童文学部門、さらには同賞の全部門を通しての大賞に選ばれるという快挙を成し遂げ、米国のポストングローブ・ホーンブック賞も受賞した。エミリー・グラヴェット＝英国を代表する絵本作家・挿絵画家。2005年に発表した『オオカミ』と2007年に発表したLittle Mouse's Big Book of Fearsで2度ケイト・グリーンナウェイ賞（現カーネギー賞画家賞）を受賞。以降発表した作品のほとんどが同賞にノミネートされている。挿絵を担当した作品では、ハロルド『ぼくが消えないうちに』、ローリング『クイディッチ今昔 カラーイラスト版』などが日本でも刊行されている。		

65

『 <b>伝説とカフェラテ 3</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>Brigands &amp; Breadknives</b>		創元推理文庫
トラヴィス・バルドリ	原島 文世 訳	秋
2巻の舞台となった港町マークの書店主、ラットキンのファーンは代わり映えのしない生活に飽き飽きしていた。いまの書店を売って、旧友ヴィヴの住むチューネで新たな書店を開くのだ。開店セールは大成功だったものの、なぜか内心の鬱屈は増すばかり。たまたま酔った勢いで伝説の賞金稼ぎの女エルフ・アストリクスの馬車に忍び込んでしまったファーンは目が覚めると遙かな旅の空にいた。アストリスクは懸賞首のゴブリン娘ジルを捕縛し、懸賞金事務所がある町まで連れて行く途中だった。ストイックな女エルフ、すぐ悩む小鼠人、そしてとぼけたゴブリン娘の3人のでこぼこ旅が幕を開ける。		
著者紹介：米国の作家、オーディオブックのナレーター、コンピューターゲーム開発者。デビュー長編『伝説とカフェラテ 傭兵、珈琲（コーヒー）店を開く』は出版直後ニューヨークタイムズのベストセラーリストに掲載され、ヒューゴー賞、ネビュラ賞、ローカス賞の最終候補作になり、アスタウンディング新人賞を受賞している。		

66	『 <b>エミリー・ワイルドの妖精事典</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>Emily Wilde's Encyclopedia of Faeries</b>	創元推理文庫
ヘザー・フォーセット	原島 文世 訳	6月
<p>妖精の存在が認知されており、希少生物が孤立部族のような扱いで研究対象となっている20世紀初頭の英国。ケンブリッジ大学樹木妖精学部の非常勤教授エミリー・ワイルドは8年前にケンブリッジ大学の最年少教授となった気鋭の研究者で、この分野初となる包括的な妖精事典を執筆中。優秀だが研究以外のことにはほとんど興味がないコミュ障だ。友人と言えるのは研究者仲間のウェンデルだけ。そんな彼女が研究のために滞在している北方の島で妖精がらみの事件に遭遇し、友人兼ライバルのバンブルビーと協力して事件を解決、最初はエミリーを嫌っていた村人の信頼を得てゆく。研究一筋コミュ障の女性研究者と、うぬぼれが強く八方美人でときに冷酷ながら世話焼きライバルのコンビが絶妙なコージーファンタジイ。</p>		
<p>著者紹介：1989年生まれのカナダのファンタジイ作家。2017年出版のYA作品Even the Darkest Starsで長編デビューした。これまではYAと児童書分野で活躍しており、2023年にはブロガーの選ぶYA／児童書賞Cxyblis Awardを受賞しているが、大人向けの長編ファンタジイは本作が初めて。考古学の学士号、英米文学の修士号をもっているそうで、作中の注釈にもそれらしい雰囲気漂っている。</p>		

67	<b>タイトル未定</b>	創元推理文庫
阿泉 来堂（あずみ・らいどう）		年内
<p>「みんなが健やかに暮らす町」というキャッチコピーのもと、ニュータウン造成がすすむ葦根町。ありふれた幸せに満たされた郊外都市には、一方でどこか妙なところがあった。昼間だというのにカーテンを閉め切った家々、虚ろな眼で玄関先に現れる住人たち、キッチンに散乱した食肉の空きパック——民家の内奥にうごめくものは何なのか？ 本レーベル初登場の実力派が贈る、不穏と戦慄のホラー・エンターテインメント。</p>		
<p>著者紹介：2020年、『ナキメサマ』で横溝正史ミステリ&amp;ホラー大賞〔読者賞〕を受賞し、デビュー。著書に同作を第一巻とした《作家・那々木悠志郎》シリーズや、『贖物霊媒師 榎備十三のうろんな除霊譚』、『死人の口入れ屋』などがある。</p>		

68	『 <b>竜の医師団 5</b> 』	創元推理文庫
庵野 ゆき（あんの・ゆき）		5月
<p>カランバスの〈竜ノ医師団〉は、全施設を載せた汽車ごと、南国ガナラージャに向かっていた。というのも、赤ちゃん竜チューダが飛行の練習をするのにびったりな海がカランバスにはないからだ。養父デイドウスはチューダを連れて暖かい海があるガラナージャに一時移動、医師団もついていくことになった。もちろんニーナ師、リュウ、レオ、リリもガナラージャに。異国の地で彼らがであろうのは……。大人気シリーズ第5弾。</p>		
<p>著者紹介：徳島県生まれのフォトグラファーと、愛知県生まれの医師の共同ペンネーム。2019年『水使いの森』（応募時のタイトルは『門のある島』）で第4回創元ファンタジイ新人賞優秀賞を受賞。著書に『水使いの森』『幻影の戦』『叡智の覇者』〈竜の医師団〉シリーズがある。</p>		

69	『 <b>竜の医師団 6</b> 』	創元推理文庫
庵野 ゆき（あんの・ゆき）		6月
<p>沖に流された仔竜チューダを、リョウ、レオ、リリは飛空船〈リリ号〉に乗って空から搜索する。チューダは見つかったものの、船は故障し陸地は遠ざかる一方。しかも怖ろしい敵が仔竜に迫っていた。危うしチューダ！ 思いがけない助け手のおかげで助かった一行だったが、ガラナージャで出会った竜ノ医師を目指す少年の存在が、そしてレオが口にした何気ないひと言が、封印されていたリョウのつらい過去の記憶を解き放とうとしていた……。南大国ガラナージャ編後編。竜の医師を目指す少年たちを描く、大人気の異世界青春医療ファンタジイ第6弾。</p>		

70	『 <b>封印された魔法の地</b> 』 ※ <b>仮題</b>	四六判単行本
乾石 智子（いぬいし・ともこ）		冬
<p>魔法があふれるタンバル帝国の少女が追っ手をのがれて、帝国と地峡で繋がる魔法をもたない北の大地に渡る。そこで少女が得たものは。</p>		
<p>著者紹介：山形県生まれ。山形大学卒業。山形県在住。1999年教育総研ファンタジー大賞受賞。スターウルフで目を覚まし、コナン・ザ・バーバリアンから最初の一步を助けてもらった。著作に『夜の写本師』『魔道師の月』『太陽の石』『オーリエラントの魔道師たち』『紐結びの魔道師』『沈黙の書』『イスランの白琥珀（こはく）』『神々の宴』『久遠（くおん）の島』『夜色表紙の本』『闇の虹水晶』『滅びの鐘』『月影の乙女』などがある。</p>		

71	『 <b>くあしや超常現象調査</b> 』シリーズ <b>第3作</b> 』 ※ <b>仮題</b>	四六判並製
	上條 一輝（かみじょう・かずき）	年内
	ホテルのチャペル内で、「あしや超常現象調査」に懐疑的であったライターが死体となって発見される。現場の状況から、手を下せる人間は芦屋晴子しか存在しない——が、彼女は絶対に殺していない。容疑を晴らすためには、人ならざるものによる犯行を立証しなくてはならない。晴子の無実を信じる越野の前に、心霊研究が始まって以来の約150年で誰も成し得なかった"幽霊の証明"という難題が立ちをはかる。〈あしや超常現象調査〉シリーズ、堂々の完結編。	
	著者紹介：1992年長野県生まれ。早稲田大学卒。現在は会社員の傍ら、webメディア〈オモコロ〉にて加味條名義でライターとして活動している。『深淵のテレバス』（応募時タイトル「バラ・サイコ」）で創元ホラー長編賞を受賞しデビュー。同作は、朝宮運河氏主催の読者投票企画「ベストホラー2024」（国内部門）と、『このホラーがすごい！ 2025年版』（国内編）で1位に選ばれた。	

72	『 <b>不死者の物語</b> 』	四六判単行本
	川野 芽生（かわの・めぐみ）	秋
	この世界には不死者の一族が暮らしている。時には命に限りのある「宿命者」に混じって、時には人里離れた場所に仲間たちだけで、不死者は生きてきた。かれらは同性の間でも子をなすことができるが、生まれた者が不死者であるとは限らない。最愛の我が子や友人が自分より早く年老いてこの世を去ることも稀ではなく、不死者はどの時代のどこにいても孤独な、永遠の流浪の民である。謎めいた肖像画、女子寄宿学校に伝わる卒業できない少女の逸話、記憶を亡くした美貌の兵士、山深い村で受け継がれる異端の儀式。うつり変わる世界のなか、永遠に閉じ込められて生きる人々の数奇な運命を描く連作集。	
	著者紹介：1991年神奈川県生まれ。東京大学大学院単位取得満期退学。2018年「Lilith」三十首で第29回歌壇賞を受賞し、20年に第一歌集『Lilith』を上梓。同書は21年、第65回現代歌人協会賞を受賞した。他の著作に、小説『月面文字翻刻一例』『奇病庭園』『Blue』、評論『幻象録』、歌集『星の嵌め殺し』などがある。	

73	『 <b>鬼門の村</b> 』	四六判並製
	榊木 理宇（くしき・りう）	3月
	大学生の友部は、社会民俗学の教授・嘉形の依頼で、夏休みのあいだR県の山奥にある村に滞在し、ラジオ番組に投稿された怪談体験の整理を行うことになった。注意点は二つ、昭和三十年代に起きた一家惨殺事件が起きた家に滞在すること。水道水や、その土地で採れた野菜を一切口にしないこと。何度戻しても戻ってくる石、神社を守る子供の儀式、どこまでも追いかける白い影……不気味な投稿を読み続けるうち、友部はこの村に隠されたおぞましい真実に迫っていく。日本ホラー小説出身作家、初の本格長編ホラー。	
	著者紹介：1972年新潟県生まれ。2012年『ホーンテッド・キャンパス』で第19回日本ホラー小説大賞読者賞を受賞。同年、『赤と白』で第25回小説すばる新人賞を受賞する。著書に『執着者』、〈ホーンテッド・キャンパス〉シリーズ、〈依存症〉シリーズ、『死刑にいたる病』『虜囚の犬』『少年籠城』『悲鳴』などがある。	

74	『 <b>アトリン夫人の訳あり下宿屋</b> 』 ※ <b>仮題</b>	創元推理文庫
	佐藤 さくら（さとう・さくら）	冬
	アトリン夫人は貴族の子弟の家庭教師をしたこともある才女だが、現在は王都で訳ありの下宿人を受け入れる下宿屋（立派な館だが）を営んでいる。あるとき雪のように白い巻き毛に小さな触角をもつ亜人の少年キリルを預かることになる。キリルは減んでしまった亜人の種族のたった一人の生き残りだった。ショックのあまり心を閉ざしてしまったキリルだったが……。	
	著者紹介：福岡県出身。西南学院大学卒業。2015年、第1回創元ファンタジイ新人賞優秀賞受賞。著作に『魔導の系譜』『魔導の福音』『魔導の矜持』、「守護者とトネリコ」（『小説 魔法使いの嫁 金糸篇』所収）がある。	

75	『 <b>イザベラ・バード、奥州で妖怪に会う</b> 』 ※ <b>仮題</b>	創元推理文庫
	白鷺 あおい（しらすぎ・あおい）	4月
	明治11年、英国が誇る旅行家イザベラ・バードは日本を訪れていた。今回の旅の目的地は蝦夷。まだ西洋人が通ったことがないルートで、東京から陸路蝦夷地を目指すのだ。旅のお供は通訳兼従者の伊藤鶴吉と、他の人の目には見えないブラウニーのディルとピクシー（多分）のジンジャー。そう、イザベラは妖精を視る力をもっているのだ。そんなイザベラが奥州を旅すれば、日本の妖怪に出会わないわけがない。滞在先で次々に遭遇する妖怪がらみの不可解な事件を、持ち前の好奇心と行動力で解決する。レディ・トラベラーの日本妖怪旅行記。	
	著者紹介：岡山県出身。筑波大学第2学群比較文化学類卒業。2016年、第2回創元ファンタジイ新人賞優秀賞受賞。著書に『ぬばたまおろち、しらたまおろち』『人魚と十六夜（いざよい）の魔法』『蛇苺（へびいちご）の魔女がやってきた』『シトロン坂を登ったら』『月蝕の夜の子守歌』『セーラー衿（カラー）に瑠璃紺（るりこん）の風』がある。	

76	『 <b>ペロの移動式キッチン</b> 』 ※ <b>仮題</b>	創元推理文庫
	鈴森 琴（すずもり・こと）	冬
	ささやかな屋台食堂を営みながら旅をしていたペロの前にあらわれたのは、甲羅の上に館を載せた巨大な亀だった。その館には不思議な男と懐かない猫。男が口ずさむ古い歌が表す昔の料理の謎にペロが挑む。	
	著者紹介：東京都出身。玉川大学文学部卒業。2018年の第3回創元ファンタジイ新人賞に佳作入選した『忘却城の界人（さかいびと）』を、2019年『忘却城』と改題してデビュー。他の著書に『忘却城 鬼帝女（きていによ）の涙』『忘却城 炎龍の宝玉』『皇女アルスルと角の王』『騎士団長アルスルと翼の王』がある。	

77	『 <b>妖怪の子、育てます 6</b> 』【 <b>児童書版</b> 】	四六判並製
	廣嶋 玲子（ひろしま・れいこ）	発売中
	妖力を分け与えるためとはいえ、妖怪奉行所東の地宮のお奉行様月夜公が犬猿の仲である朔ノ宮に口づけしたという事件は、あつというまに噂好きの妖たちの間に広まった。そこで黙っていられなくなったのが、日頃朔ノ宮に熱をあげていたいもりの妖怪白守だ。月夜公に果たし状を送っても相手にされず、送りつけた大量の文もすべて黙殺され、怒り心頭に発した白守はついに最終手段にでることに……。果たしてその顛末は？ 妖怪の子預かり屋の青年弥助と養い子の千吉と、妖たちの愉快でほろ苦く、心に響くエピソードをつないだ、人気シリーズ第6弾。	
	著者紹介：神奈川県生まれ。『水妖の森』で、ジュニア冒険小説大賞を受賞し2006年にデビュー。主な作品に、〈妖怪の子預かります〉シリーズ、〈ナルマンン年代記〉三部作、〈ふしぎ駄菓子屋 銭天堂〉シリーズ、〈十年屋〉シリーズ、〈鬼遊び〉シリーズ、〈おっちょこ魔女先生〉シリーズ、〈秘密に満ちた魔石館〉シリーズ、〈トラブル旅行社（トラベル）〉シリーズや、『鳥籠の家』などがある。	

78	『 <b>怪奇幻想アンソロジー 愛しき怪物たち</b> 』 ※ <b>仮題</b>	創元推理文庫
	東 雅夫（ひがし・まさお） 編	夏
	怪奇幻想ジャンルを代表する「愛しき怪物たち」「死人のたたり」「妖怪大戦争」のテーマごと、現在では読むことが難しい作家・作品や幻の名作群を中心に集めたアンソロジー第1弾。	
	編者紹介：1958年神奈川県生まれ。早稲田大学卒。文芸評論家、アンソロジスト。『幻想文学』と『幽』の編集長を歴任。著書に『遠野物語と怪談の時代』（日本推理作家協会賞受賞）、『百物語の怪談史』ほか、編纂書に『日本怪奇小説傑作集』全三巻（紀田順一郎と共編）、『文豪妖怪名作選』『猫のまぼろし、猫のまどわし』ほか多数がある。	

<p><b>文芸 Lineup for 2026<span> </span>: Literature</b></p>
--

『**プラハの墓地**』【文庫版】

<p><b>Il cimitero di Praga</b></p>	<p>創元ライブラリ</p>	
ウンベルト・エーコ	橋本 勝雄 訳	秋
<p>ナチのホロコーストを招いたと言われている、現在では「偽書」とされる「シオン賢者の議定書」、この文書を作り上げた男、文書偽造術に長けたシモーネ・シモニーニの回想録の形をとった小説で、彼以外の登場人物のはほとんどが実在の人物という、19世紀ヨーロッパを舞台に繰り広げられる大陰謀小説。プラハの墓地というのは、プラハに今なお荒れたまま残るユダヤ人墓地のことであり、そこでユダヤ人たちが世界征服を企む集会を開いたとされる場所である。史上最悪の偽書『シオン賢者の議定書』成立の秘密。『薔薇の名前 [完全版] 』の著者エーコが描く憎しみと差別のメカニズム！</p>		
<p>著者紹介：1932年、北イタリア、アレッサンドリア生まれ。記号学者、文芸評論家、哲学者、文学者、作家。トリノ大学で中世美学、トマス・アクィナスを研究。卒業後、イタリア放送協会（RAI）の文化番組や出版社ボンピアーニの評論部門に関わる。ミラノ大学、フィレンツェ大学を経て、ポローニャ大学の記号論の教授に就任。同大学名誉教授。著書に『薔薇の名前』、『フーコーの振り子』、『プラハの墓地』、『記号論』、『開かれた作品』、他多数。2016年2月没。</p>		

<p>『<b>総統に愛された建築家</b>』※<b>仮題</b></p> <p><b>Vous êtes l'amour malheureux du Führer</b></p>	<p>四六判  <small>(海外文学セレクション)</small></p>	
ジャン＝ノエル・オランゴ	高橋 啓 訳	夏
<p>アルベルト・シュペーアは、ヒトラーのお気に入りの建築家で、軍需大臣にまでなった人物。ニュルンベルク裁判で、自分はユダヤ人虐殺については全く知らない非政治的なテクノクラートと主張。が、連帯責任は負うのが当然と述べ、善きナチスという印象を与え死刑を免れた。現在は、その嘘は暴かれ、彼の真の姿についての書物も多く刊行されている。本書は、そういったノンフィクション的な作品とは微妙に異なり、決して、シュペーアの嘘を暴こうとしているわけではなく、彼は小説を書いたのだ、彼の回想録や日記は彼自身が主人公の小説なのであって、彼自身も多くのドイツ人たちも、それにすがりたかったのではないか……と主張する。</p>		
<p>著者紹介：1975年生まれ。フランスの作家、評論家（映画評論も多い）。2015年デビュー小説でサド賞とフロール賞を受賞。知的緻密さと没入感のある文学性が融合した作風。本書もゴンクール賞最終候補になった。</p>		

<p>『<b>ホエールフォール</b>』※<b>仮題</b></p> <p><b>Whalefall</b></p>	<p>四六判  <small>(海外文学セレクション)</small></p>	
ダニエル・クラウス	佐田 千織 訳	秋
<p>【10月全米映画公開決定】卓越したダイバーだが不器用な生き方しかできなかった父が、病で余命を悟り海で自ら命を絶った。父に複雑な思いを抱く17歳の息子ジェイは、その遺骨を求め、無謀ともいえるダイビングに挑む。だがその最中、ジェイは巨大なマッコウクジラに呑み込まれてしまう。酸素残量は1時間。ジェイはクジラの体内から脱出すべく闘いながら、父と、そして自らと向き合っていく……。心震える珠玉の海洋小説。</p>		
<p>著者紹介：1975年アイオワ州生まれ。2009年に作家デビューし、2022年ブラム・ストーカー賞ミドルグレード部門を受賞。映画とのコラボ作品も発表し、ジョージ・ロメロ監督の『ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド』のリライトやギレルモ・デル・トロ監督との共著も発表している。本著はニューヨーク・タイムズ紙、USAトゥデイ紙はじめ多数の新聞社や雑誌、図書館などからベストセラーや推薦図書として選ばれ、注目を集めている。</p>		

<p>82 『<b>ヨーゼフ・メンゲレの逃亡</b>』【文庫版】</p> <p><b>La disparition de Josef Mengele</b></p>	<p>創元ライブラリ</p>	
オリヴィエ・ゲーズ	高橋 啓 訳	2月
<p>アウシュビッツ絶滅収容所に着いたユダヤ人を、ガス室行きと生存させる組とに選別した医師メンゲレは、優生学に取り憑かれ、子供、特に双子たちに想像を絶する実験を重ねた。1945年のアウシュビッツ解放後に南米に逃走、79年ブラジルで心臓発作で死ぬまでモサドの目を逃れ生きた。なぜ、彼は生き延びることができたのか？ どのような逃亡生活を送ったのか？ その半生の真実と、人間の本質に淡々と、鋭い筆致で迫った傑作小説。ルノードー賞受賞。そしてその年のprix des prix（賞の中の賞）も受賞。キリル・セレブレンニコフ監督により『死の天使 ヨーゼフ・メンゲレ』のタイトルで映画化、2月27日シネマート新宿、シネスイッチ銀座ほかにて公開（配給会社：トランスフォーマー）。</p>		
<p>著者紹介：1974年、ストラスプール生まれ。ストラスプール政治学院卒業後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスとブルッヘの欧州大学院大学で学び、その後 フリー・ジャーナリストとして「ニューヨーク・タイムズ」、「ル・モンド」、「フランクフルター・アルゲマイネ・ツァイトゥンク」など大手メディアに寄稿。ジャーナリスト、エッセイストや、小説家。ドイツ映画『アイヒマンを追い！ ナチスがもっとも畏れたた男』の脚本でドイツ映画脚本賞を受賞。本書はルノードー賞を受賞後、その年の最高の小説作品に与えられる「賞の中の賞（プリ・デ・プリ）」も受賞。2月27日公開の映画『死の天使 ヨーゼフ・メンゲレ』の原作である。</p>		

<p>83 『<b>不運な奴ら</b>』</p> <p><b>The Unfortunates</b></p>	<p>特製函入り四六判</p>	
B・S・ジョンソン	若島 正 訳	4月
<p>最初と最後以外は、どこから読んでもいいという27のパーツに分かれた小説を函に入れた実験的な作品。主人公のスポーツ記者が、かつて親友夫妻と住んでいた町を仕事で訪れるが、そこでサッカーの観戦記事を書く彼の脳裏には、若くして病死した親友の記憶が切れ切れに浮かび上がる。現在と過去は同等で、その同時性、その混淆と欠落をジョンソンはアトランダムに函に入れることで表現する。人間のもろい生を見事に描き上げたベケット絶賛の問題作。</p>		
<p>著者紹介：1933年、イギリス、ロンドン生まれ。ロンドン・キングズ・カレッジ卒業。デビュー作でT・S・エリオットに認められ、グレゴリー賞を受賞。その後、次々に実験小説風の作品を発表し、三作目の『トロール』でサマセット・モーム賞を受賞。ジョイス、ベケットの後継者として脚光を浴びた。創作活動は、小説のみにとどまらず、戯曲や詩にも及ぶ。映画・TV作品も手がけ、自ら監督も務めた。1968年には、世界短編映画祭でグランプリを受賞。73年、ロンドンの自宅で自死。</p>		

<p>84 『<b>手紙の店クルウォル</b>』※<b>仮題</b></p> <p>편지 가게 글월</p>	<p>四六判単行本</p>	
ペク・スンヨン	小西 直子 訳	年内
<p>多額の借金を残した姉と交流を絶ち、映画監督の夢を諦めた28歳のヒョヨン。ある日彼女は、手紙に関するものを守る店「クルウォル」で働き始める。そこでは便箋や封筒、カード、ペンなど趣味の良い品を並べており、「ペンバル」というサービスが目玉だ。知らない人宛てに手紙を書き、それと引き換えに知らない人の書いた手紙を一通選ぶ。書きたければ返事を書くことができ、その相手に届けられる。仕事に慣れてきたヒョヨンは、酔った勢いで、姉に手紙を送ってしまう。それは予想外の展開をもたらす……。韓国発、手紙だからこそそのあたたかい心の通い合いを描いたじわりと胸に染みいる感動作。</p>		
<p>著者紹介：2017年に文芸誌『文学思想』を通じて作家デビュー。ウェブトゥーン『最強レシピで作ります！ #伝説のアイドル』を脚色。現在構想中の『別れのヘアサロン』が2023年釜山国際映画祭のストーリーマーケットに選定される。思春期の頃から作家を志し、出版社テクスティとの出会いを通じて『手紙のお店クルウォル』を発表した。長文を書くことが得意という才を生かし、『手紙のお店クルウォル2』など長編小説を準備中。</p>		

85	『 <b>わたしたちの図書館旅団</b> 』 <div><b>Miss Morgan's Book Brigade</b></div>	四六判並製
	ジャネット・スケスリン・チャールズ	高山 祥子 訳
	発売中	
	1918年。ニューヨーク公共図書館の司書ジェシーはフランス北部に到着した。戦争で荒廃した村で、ドイツ軍に破壊された図書館の再建を目指すためだ。ジェシーは傷ついた住民に本を届け、兵士に戦地での慰めとなる一冊を紹介し、子どもたちに読み聞かせをおこなっていく。だがドイツ軍が村に迫ってきて……。第一次世界大戦中、命を失う恐怖を抱えながら、本の力を信じて闘った司書の物語。『あの図書館の彼女たち』の著者が贈る傑作長編！	
	著者紹介：アメリカのモンタナ州出身で、現在はパリに住む。デビュー長篇Moonlight in Odessaはメリッサ・ネイサン賞のロマンティック・コメディ小説部門賞を受賞し、〈パブリッシャー・ウィークリー〉誌で2009年秋のデビュー作品トップ10のひとつに選ばれた。パリのアメリカ図書館でプログラム・マネジャーとして働いた経験を活かして執筆した『あの図書館の彼女たち』は、2021年のAmazonベストブックの一冊に選ばれ、〈ニューヨーク・タイムズ〉紙のベストセラーリストに載るなど人気を博した。	

86	『 <b>タンポポ時計</b> 』 <div><b>The Dandelion Clock</b></div>	四六判上製
	ガイ・バート	山田 蘭 訳
	発売中	
	ロンドンでの大規模な展覧会を控える中、ほんの数日の猶予をもらって、ほくは13歳の夏までの少年時代をすごしたイタリアの村へ帰ることにした。思い出の家を何かにとりつかれたように修理し、少年のころと同じ色に壁を塗りなおしながら、ほくは展覧会のことも忘れ、これまで封じこめていた記憶が怒涛のように甦ってくるのに身をまかせていた。七歳のとき、近所に引っ越してきたジェイミーのこと。八歳の夏休みをともに過ごしたジェイミーの従妹アンナのこと。ここを離れてからの寄宿学校での生活、そして二十歳を過ぎてからの再会――。『ソフィー』のガイ・バートによる、透明なノスタルジーと哀しみに満ちた類を見ない大河小説。	
	著者紹介：1972年イギリス生まれ。12歳でW・H・スミス文学賞のヤング・ライターズ・コンテスト部門に入賞。オックスフォード大学で英文学を学び、1993年に『体験のあと（別題：穴）』でデビュー。同書は1994年にベティ・トラスク賞を受賞し、2001年に映画化された。1999年以降はテレビ・ドラマの脚本家としても活躍し、2015年にはドラマ「Harriet's Army」で英国アカデミー賞子ども向け部門の脚本賞を受賞する。ほかの著書に『ソフィー』がある。	

87	『 <b>旅立ち</b> 』※ <b>仮題</b> <div><b>Departure(s)</b></div>	四六判単行本（海外文学セレクション）
	ジュリアン・バーンス	上杉 隼人 訳
	秋	
	ブルーストとマドレーヌの挿話に端を発し、記憶と老いについて描く5章の随想風小説。学生時代の男女の友人の、愛と別れ、そして40年後にその二人が結ばれまた別れたエピソード、どちらにも関わった人間としての悔い、彼らの残した犬、ジャックラッセルテリアの老い、老いた友人の作家たちとの思い出などをからめて老いることを見事に描いていく。血液のガンをわずらう自身が語りかけているのは読者なのだろう。エッセイのような小説、小説のようなエッセイは人生を考えるかっこうの材料となろう。	
	著者紹介：1946年、イギリス、レスターに生まれる。オクスフォード大学卒業。オクスフォード英語辞典の編集者、ジャーナリストを経て、執筆活動に入る。ブッカー賞、サマセット・モーム賞、E・M・フォースター賞、メディシス賞、フェミナ賞など各国の数々の文学賞を受賞したイギリスを代表する知性派作家。著書は『フロペールの鸚鵡』『イングランド、イングランド』『終わりの感覚』他。	

88	『 <b>言語の七番目の機能</b> 』【文庫版】 <div><b>La septième fonction du langage</b></div>	創元文芸文庫
	ローラン・ピネ	高橋 啓 訳
	発売中	
	ロラン・バルトの事故死についてバイヤール警部が捜査を開始した。哲学も記号論もチンプンカンプンの反動的プチブルの彼は若手記号学者シモンに協力を仰ぐ。シモンは次第にジェームズ・ボンドばりの活躍をするように！ 謎の論文「言語の七番目の機能」がすべての鍵らしい。会長がウンベルト・エーコの秘密結社《ロゴス・クラブ》とは？ フーコー、ソレルス、クリステヴァ、ドゥールーズ、デリダ、エーコ等々あらゆる知識人や政治家たちが乱舞する、記号学的ミステリ！ 驚くべき展開の果てに、言葉の持つ力が浮かび上がる。	
	著者紹介：1972年フランス、パリ生まれ。パリ大学で現代文学を修め、兵役でフランス語教師としてスロヴァキアに赴任し、その後、パリ第三大学、第八大学で教鞭を執る。『HHhH――プラハ、1942年』でゴンクール賞最優秀新人賞と、リーヴル・ド・ポッシュ読者大賞を受賞（日本では本屋大賞・翻訳小説部門第1位、Twitter文学賞・海外編第1位となった）、『言語の七番目の機能』でアンテラリー工賞とFnac小説大賞、『文明交錯』ではアカデミー・フランセーズ小説大賞を受賞するなど、現代フランス文学界を牽引する存在となっている。第四作は今年海外文学セレクションで刊行を予定している『遠近法（仮）』。	

89	『 <b>遠近法</b> 』※ <b>仮題</b> <div><b>Perspective(s)</b></div>	四六判単行本（海外文学セレクション）
	ローラン・ピネ	高橋 啓 訳
	夏	
	16世紀のフィレンツェ、ミケランジェロやラファエロの手法、様式を称え、自然を凌駕する高度な芸術手法という意味を持つマニエリスムの老画家ポントルモ（実在）が、11年描き続けているフレスコ画の前で殺害されて発見された。そこには、メディチ家の娘マリア・ダ・メディチを描いた猥褻な絵が残されていた。ポントルモを殺したのは誰か？ いかかわしい絵を描いたのは誰なのか？ 画家で建築家で美術史家のヴァザーリ（実在）が調査を始める。ルネサンス期のディーブフェイクの犯人を探る書簡体（176通の書簡で構成）ミステリ！	

90	『 <b>オランダ人の妻</b> 』※ <b>仮題</b> <div><b>The Dutch Wife</b></div>	四六判単行本（海外文学セレクション）
	エリック・マコーマック	柴田 元幸 訳
	秋	
	三週間以上ぶりに海外から帰ると連絡してきた夫を待つ、レイチェル・ヴァンダーリンデン。彼が帰宅すると合図として長押し三回という玄関ベルがいつも鳴るのだったが、いつもと違って夫は入ってこない。再び同じ三回のベル。不思議に思ったレイチェルがドアを開けると、見知らぬ男が立っていた。もごもごと男が言ったのは「君の夫だ」という驚くべき言葉だった。「僕が君の夫だ」「え？」驚いた彼女が彼を見つめると、男は「すみません」と言って立ち去ろうとする。彼女はほっとしたが、突然気が変わり、男を呼び止めると、家に迎え入れる。そして二人は夫婦として暮らし始めた。レイチェルの息子が本当の父親の姿を求めて、旅をし、そこで出会う、奇妙で奇怪な謎を語るマコーマックらしさ全開の物語。著者は柴田元幸氏が偏愛する作家。	
	著者紹介：1938年、スコットランド生まれ。グラスゴー大学を卒業。1966年、カナダに移住。マニトバ大学、ウォータールー大学で17世紀および現代英文学の教鞭を執った。著書に『隠し部屋を査察して』、『パラダイス・モーテル』、『雲』等がある。2023年5月没。	

91	『 <b>森島章子は人を撮らない</b> 』 ※ <b>仮題</b>	四六判仮フランス装
	秋永 真琴（あきなが・まこと）	4月
	写真を撮る社会人サークル〈札幌フォトジェニック〉に所属する大学生の森島章子。彼女の撮るものは、日常の何気ない物事ばかりなのに、どこか人を惹きつける不思議な魅力をもっていた。章子に撮ってもらいたいという人は多く、周囲もポートレートを撮ることを進めるのだが、彼女はかたくなに誰にもレンズを向けようとしない。過去には親しい人を撮っていたこともあるらしいのに、どうして……？ 元恋人、サークルの知人、小説家志望の年上の女友達、家庭教師として教えている中学生。周囲の人々の目につる章子の横顔と、章子がファインダー越しに覗く世界を描く、心揺さぶる連作短編集。	
	著者紹介：北海道函館市生まれ。札幌市在住。2009年『眠り王子と幻書の乙女』でデビュー。著書に『眠り王子と妖精の棺』『ワンドオブフォーチュン すべての色を纏う者』などがある。参加アンソロジーに『Genesis 一万年の午後』『料理をつくる人』、『北海道SFアンソロジー 無数の足跡を追いかけて』（共同編集）。	

92	『 <b>タイトル未定</b> 』	四六判単行本
	朝倉 宏景（あさくら・ひろかげ）	夏
	遠藤七緒はふと甲子園を検索したところ、高校時代の恋人・東城真央が今晚、初登板することを知る。高校三年生の夏、甲子園出場を決めた母校で、エースピッチャーだった真央との思い出、台風で応援に駆けつけられなかった悔しく哀しい気持ちを振り切るため、東海道新幹線に乗り込む。同じくあの夏、チア部として応援を完遂できなかった齋藤いづみもまた、甲子園球場に向かう。理不尽な“夏と青春の終わり”を経験した4名と、東城真央が迎える先とは――。気鋭の著者が贈る、渾身の物語。	
	著者紹介：1984年東京都生まれ。2012年『白球アフロ』で第7回小説現代長編新人賞奨励賞を受賞してデビュー。18年『風が吹いたり、花が散ったり』が第24回島清恋愛文学賞を受賞。他の著書に『つよく結べ、ポニーテール』『あめつちのうた』『エール夕暮れサウスポー』『ゴミの王国』『死念山葬』『あの冬の流星』などがある。	

93	『 <b>藍色時刻の君たちは</b> 』【文庫版】	創元文芸文庫
	前川 ほまれ（まえかわ・ほまれ）	秋
	2010年10月。宮城県の港町に暮らす高校2年生の小羽（こはね）は、統合失調症を患う母を抱え、介護と家事に忙殺されていた。彼女の鬱屈は、同級生である、双極性障害の祖母を介護する航平と、アルコール依存症の母と幼い弟の面倒を見る凜子にしか理解されない。だが、町にある親族の家に身を寄せていた青葉という女性が、小羽たちの孤独に理解を示す。彼女との交流で3人が前向きになっていった矢先、2011年3月の震災により全てが一変してしまう。2022年7月。看護師になった小羽は、震災時の後悔と癒えない傷に苦しんでいた。そんなある時、彼女は旧友たちと再会。それを機に過去や、青葉が抱えていた秘密と向き合うことに……。第14回山田風太郎賞を受賞した感動長編、待望の文庫化！	
	著者紹介：1986年生まれ、宮城県出身。看護師として働かたわら、小説を書き始める。2017年『跡を消す 特殊清掃専門会社デッドモーニング』で、第7回ポプラ社小説新人賞を受賞しデビュー。『シークレット・ペイン 夜去医療刑務所・南病舎』は第22回大藪春彦賞の候補となる。23年、『藍色時刻の君たちは』で第14回山田風太郎賞を受賞。その他の著書に『セゾン・サンカンシオン』『臨床のスピカ』『在る。SOG   支援医のカルテ』がある。	

94	『 <b>アンソロジー猫</b> 』 ※ <b>仮題</b>	創元文芸文庫
	阿部 智里（あべ・ちさと）、越谷 オサム（こしがや・おさむ）、櫻部 由美子（さくらべ・ゆみこ）、澤田 瞳子（さわだ・とうこ）ほか	秋
	キジ白の雌を甲斐甲斐しくお世話する私の父。ある日、小さな仔猫を連れてやって来て……「父の片恋」阿部智里。川嶋家で黒猫のテオを引き取ってから、なぜかトラブルつづき。私は顔が腫れ、弟は鼻骨骨折、父は原因不明の発熱……「悪魔の爪」越谷オサム。黒猫のマタジロとともに、猫が消えるという不穏な村を訪れた乙吉……「ねこの寺」櫻部由美子。大坂夏の陣の後始末を拝命した谷崎小一郎は、ある場所で虎猫を発見し……「焼け跡の猫」澤田瞳子。愛すべき猫たちに翻弄される人々を描く、珠玉のアンソロジー。	

## SF Lineup for 2026 : Science Fiction

95	『 <b>精霊を統べる者</b> 』（上下）【文庫版】 <b>A Master of Djinn</b>	創元 SF 文庫
	P・ジェリ・クラーク	鍛冶靖子 訳
	19世紀後半、伝説の魔術師アル＝ジャーヒズがジン（精霊）の世界の扉を開き、世界は一変した。ジンの魔法と科学の融合によりエジプトは急速な発展を遂げるが、アル＝ジャーヒズはなぜか姿を消す。それから40年後、カイロに彼の名を名のる謎の男が現れ、彼を崇拜する人々を焼きつくした。エジプト魔術省の敏腕女性エージェント・ファトマは、恋人の女性シティ、新人パートナーのハディアと捜査に乗り出す。ネビュラ賞、ローカス賞、イグナイト賞、コンプトン・クルック賞の4冠に輝き、『SFが読みたい！2025年版』海外篇1位に選ばれた、新鋭の第一長編！（文庫化）	
	著者紹介：1971年ニューヨーク生まれ。ヒューストンで育つが、幼少期を両親の出身地であるトリニダード・トバゴで過ごす。大学で歴史学を学び、現在はコネチカット大学で歴史学の助教授を務めている。2020年のノヴェラRing Shoutでネビュラ賞、ローカス賞、英国幻想文学大賞を受賞。第一長編『精霊を統べる者』で2022年のネビュラ賞、ローカス賞、イグナイト賞、コンプトン・クルック賞の4冠に輝いた。	

96	『 <b>精霊を統べる者 カイロの死せる精霊（ジン）</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>A Dead Djinn in Cairo and Other Stories</b>	四六判仮フランス装（創元海外 SF 叢書）
	P・ジェリ・クラーク	鍛冶 靖子 訳
	19世紀後半、伝説の魔術師がジン（精霊）の世界の扉を開き、世界は一変した。ジンの魔法と科学の融合により急速な発展を遂げたエジプトで、錬金術・魔術・超自然的存在省の敏腕女性エージェント・ファトマが難事件に立ち向かう……ファトマと恋人シティの出会いを描く前日譚の表題作ほか、ネビュラ賞など4冠&『SFが読みたい！』ベストSF2024海外篇1位に輝いた『精霊を統べる者』の続刊登場！	

97	『 <b>ハッピーエンドは特権</b> 』 ※ <b>仮題</b> <b>The Privilege of the Happy Ending</b>	四六判仮フランス装（創元海外 SF 叢書）
	キジ・ジョンスン	三角 和代 訳
	「これはすべての物語がいずれ死で終わるという物語だ」――物語の本質に鋭くしかし優しく切り込む世界幻想文学大賞受賞作（ハッピーエンドは特権）、交尾の際に夫を喰い殺すカマキリの妻の生態をドライに描くヒューゴー賞候補作（カマキリの妻）、都市生活者の孤独に寄り添う架空生物たちの博物誌（アパートメント暮らしの動物寓話集）――幻想小説界の鬼才による14編を収めた新短編集。	
	著者紹介：1960年米国アイオワ州生まれ。88年に作家デビューして以来、ヒューゴー賞、ネビュラ賞、世界幻想文学大賞、スタージョン記念賞など、多数の賞に輝く。ショッキングなアイデアと、冷徹さと温かさを併せもった視点から登場人物の心情を丁寧に描き出す、ジェイムズ・ティプトリー・ジュニアやアーシュラ・K・ル・グィンを思わせる作風で、現代SF・ファンタジー界きっての短編の名手として熱烈な支持を集める。小説・コミックの編集者や、カンザス大学SF研究センターの創作講座講師を務めた経験もある。なお、ペンネームの「キジ」は本名の頭文字をつなげた愛称から取ったもの。	

98	『 <b>フレドリック・ブラウン SF 短編全集</b> 』【文庫版】(全5巻) <b>From These Ashes</b>	創元 SF 文庫
	フレドリック・ブラウン	安原 和見 訳
	1 巻発売中	
	奇抜な着想、軽快なプロット、巧妙な話術で、短編を書かせては随一の名手、フレドリック・ブラウン。SFや推理小説はもとより、怪奇小説や寓話などその多岐にわたる活躍の中から、111編のSF短編すべてを新訳で収めた決定版全集を待望の文庫化。第一巻では、創元SF文庫の記念すべき第一弾を飾った『未来世界から来た男』を、原書に準じた本来の収録作・収録順とし、解題と新版解説を付してお送りする。	
	著者紹介：1906年アメリカ生まれ。新聞社、雑誌社などに勤務のかたわら、執筆を開始。1947年刊行の『シカゴ・ブルース』で、アメリカ探偵作家クラブ（MWA）賞最優秀新人賞を受賞。多くのミステリ、SF、ファンタジーを発表した。代表作は『真つ白な嘘』『不吉なことは何も』『通り魔』『不思議な国の殺人』『3、1、2とノックせよ』『未来世界から来た男』『天使と宇宙船』『スポンサーから一言』など。奇抜な着想と軽妙な話術で描くショートショートの名手。1972年没。	

99	『 <b>不死の島へ</b> 』 <b>The Affirmation</b>	四六判仮フランス装（創元海外 SF 叢書）
	クリストファー・プリースト	古沢 嘉通 訳
	2 月	
	1976年。研究者の職とロンドンの住居を立て続けに失い、恋人とも破局を迎えたピーター・シンクレアは、知人から仮住まいを許された別荘でとある原稿に着手する。のめり込むようにして執筆にはげみ、改稿を重ねるうちに生み出された〈夢幻諸島〉という名の架空世界はしかし、現実そのものを歪ませてしまう危険なヴィジョンだった！——英国SF界の孤峰にして、同国文学界でも脚光を浴びた巨匠プリースト。長く邦訳が待たれた最高傑作がついに刊行。	
	著者紹介：1943年、イギリスのチェシャー州生まれ。語り／騙りの技法を駆使した文芸性豊かなSF、幻想小説を執筆し、好評を博す。66年、SF雑誌〈インバルス〉に短篇「逃走」を発表しデビュー。74年、『逆転世界』で英国SF協会賞、96年、『奇術師』で世界幻想文学大賞、2003年『双生児』で英国SF協会賞およびアーサー・C・クラーク賞、11年に発表した『夢幻諸島から』では英国SF協会賞、ジョン・W・キャンベル記念賞をそれぞれ受賞する。『奇術師』はクリストファー・ノーラン監督によって、『プレステージ』として映画化された。24年没。	

100	『 <b>新世代スペース・オペラ傑作選 星の海を駆ける</b> 』 <b>New Adventures in Space Opera</b>	創元 SF 文庫
	ジョナサン・ストラーン 編	中原 尚哉 他訳
	3 月	
	20万年がかりの銀河周回の完了を祝うイベントで明かされる、予想外の真実（ベラドンナの夜）、小惑星帯に隠れ住む巨大知的マシンのきょうだいはある日、謎の金属構造物に捕らわれ……（金属は暗闇の血のごとく）。ダイナミックな変化と進化をつづけるスペース・オペラをテーマに、アン・レッキー、アレステア・レナルズなど、近年のヒューゴー賞やネビュラ賞の受賞作家らが集結したローカス賞候補アンソロジー。	
	編者紹介：1964年北アイルランド生まれ、オーストラリア在住。90年にSF/FT専門誌Eidolonを創刊、99年まで共同経営者・共同編集人を務めた。フリーランスの編集者・アンソロジストとして活躍し、2010年には編集者としての活動が評価されて世界幻想文学大賞の特別賞を受賞している。また、同年からゲイリー・K・ウルフと共同で制作しているポッドキャストCoode Street Podcastは、2021年ヒューゴー賞ファンキャスト部門を受賞するなど高い評価を受けている。	

101	『 <b>ザ・ビデオ・ゲーム・ウィズ・ノーネーム</b> 』【文庫版】	創元 SF 文庫
	赤野 工作（あかの・こうさく）	夏
	ゲーム依存症を治療するため韓国の某企業が開発した、「遊べば遊ぶほどつまらなくなる」ゲームの意外な真相。中国国内限定の陣取りゲームに現れた空からの刺客……2115年4月開設のレビューサイト「ザ・ビデオ・ゲーム・ウィズ・ノーネーム」が紹介するのは、極めつけの珍品のエピソードばかり。およそ100年にわたる`遊びの未来史。を架空のレビューの形式で語り尽くし、各界から絶賛を浴びた唯一無二の奇書が待望の文庫化。	
	著者紹介：ゲーマー、作家。2017年、小説サイト「カクヨム」への投稿作を改稿した『ザ・ビデオ・ゲーム・ウィズ・ノーネーム』でデビュー。25年には8年ぶりの単著『遊戯と臨界 赤野工作ゲームSF傑作選』を発表した。	

102	『 <b>竜と沈黙する銀河</b> 』 ※仮題	四六判仮フランス装（創元日本 SF 叢書）
	阿部 登龍（あべ・とりゅう）	年内
	生体印刷技術が普及した2035年。〈竜の女王〉の影を追い、査察官ザーフィラは故国へ向かう——「竜が実在する近未来の地球」と女性バディの活躍を力強い筆致で描きだし、第14回創元SF短編賞に輝いた同題作品に、主人公らの新たな戦いを描く第二部を加えた長編版。冒険SFの新時代を切りひらく野心作がここに。	
	著者紹介：作家・獣医師。1992年北海道生まれ。2023年、「竜と沈黙する銀河」で第14回創元SF短編賞を受賞。その他の作品に、『紙魚の手帖 vol.18 AUGUST 2024』で発表された短編「狼を装う」がある。	

103	『 <b>記憶人シーの最後の記憶</b> 』	四六判仮フランス装（創元日本 SF 叢書）
	柞刈 湯葉（いすかり・ゆば）	年内
	人類が築きあげた文明が滅び、〈別種〉と呼ばれる遺伝子改変者だけが散り散りに暮らす遠い未来。人の営みの全てを後世へ手渡すべく、老いることのない体と完全な記憶能力を与えられた少年シーは、しゃべる黒猫のエルとともに探索の旅をしていた。果てしなく高い塔を建てるために作られた街。村人みなが仮面をつけて暮らす集落……。未知なる〈別種〉の住処を訪ね、ひとりど一匹は今日も歩きつづける。『横浜駅SF』の著者が、やがて去りゆく人間たちへ贈るSFロードノベル。	
	著者紹介：福島県生まれ。2016年、第1回カクヨムWeb小説コンテストSF部門大賞を受賞した『横浜駅SF』でデビュー。著書に『人間たちの話』『まず牛を球とします。』などがある。	

104	『 <b>星の航海者 2 遙かな惑星</b> 』	創元 SF 文庫
	笹本 祐一（ささもと・ゆういち）	夏
	恒星間記録員のメイアは、約200年ぶりに訪れたくじら座 <span> </span> τ（タウ）星の惑星ディープブルーで、開拓第6世代の惑星記録員ミランダと出会う。ミランダは宇宙勤務を忌避していたが……。著者の真骨頂たる宇宙SFシリーズ第2弾！	
	著者紹介：1963年東京生まれ。宇宙作家クラブ会員。84年『妖精作戦』でデビュー。99年の『彗星狩り 星のパイロット2』と、2005年の『ARIEL』で星雲賞日本長編部門を、03年、04年、07年の『宇宙へのパスポート』3作すべてで星雲賞ノンフィクション部門を受賞。	

105	『 <b>ゲノム・トーカー</b> 』	創元 SF 文庫
	林 譲治（はやし・じょうじ）	4 月
	2034年。木星圏へ投入された探査衛星「さいせい」は、ミッションの途上で奇妙な電波源に遭遇する。カメラに映り込んだ巨大な黒い影——直径100メートル、全長500メートルの円筒は、人類がはじめて遭遇する異星人の宇宙船だった。彼らは1万6000年前のヒトゲノムデータを受信し、発信源を辿って太陽系を訪れたのだという。だがあらためて言うまでもなく、1万6000年前の時点で電波送信が可能な文明など、地球上には存在しなかったはずだ。ゲノムデータを宇宙へ送信したのは未知の超古代文明なのか？ それとも……。圧倒的な知的興奮を喚ぶ、人類史×宇宙SF。	
	著者紹介：1962年、北海道生まれ。臨床検査技師を経て、95年『大日本帝国欧州電撃作戦』（共著）でデビュー。架空戦記で人気を博する一方で、《AADD》シリーズをはじめとするハードSF作品を手がけ、2021年には《星系出雲の兵站》シリーズ（全9巻）で第41回日本SF大賞および第52回星雲賞日本長編部門を受賞。現代日本におけるミリタリー宇宙SFの旗手として活躍している。近著に《知能侵蝕》シリーズなど。	

106	『 <b>松崎有理第四短編集</b> 』※ <b>仮題</b>	創元 SF 文庫
	松崎 有理（まつざき・ゆうり）	夏
	『シュレーディングーの少女』『山手線が転生して加速機になりました。』で話題の松崎有理、待望の最新短編集。炭鉱労働者の少年と負傷したガチョウ兵、日本を救うため「立ち上がった」東京駅を「操縦」することになった少女と少年、地球帰還をかけたデスゲームに挑む四人ふたり……ときに笑える、ときに泣けるパティものしぼりの短編SF全四編！	
	著者紹介：1972年茨城県生まれ。東北大学理学部卒。2010年「あがり」で第1回創元SF短編賞を受賞。著書に『シュレーディングーの少女』『山手線が転生して加速器になりました。』『イヴの末裔たちの明日』などがある。	

107	『 <b>神の豚</b> 』 ※ <b>仮題</b>	四六判仮フランス装（創元日本 SF 叢書）
	溝渕 久美子（みぞぶち・くみこ）	年内
	感染症の蔓延で食用動物がいなくなった近未来の台湾。実家で一人暮らしをしていた長兄が子豚に変わってしまったと、次兄から末の20代の妹に連絡があった。彼女は台北での勤めをやめて実家に戻り、このかわいい豚を人目から隠して過ごすことに——選考委員全員の賞賛を集めた第12回創元SF短編賞優秀賞受賞作をはじめ、感動がすべてに優先されるようになった時代のプロ野球選手の苦闘「五パーセントの存在理由（レゾンデートル）」、自動運転車が主流の時代に、あえて手動運転で家の壁沿いぎりぎりに駐車できるかを競う京都・西陣の人々「エクストリーム軒先駐車大会」など、新鮮なセンスに満ちた待望の第一短編集。	
	著者紹介：京都市在住。2021年、「神の豚」で第12回創元SF短編賞優秀賞を受賞。名古屋大学大学院を経て、現在は大学非常勤講師。専門は映画学・映画史。共訳書に『影の美学—日本映画と照明』（宮尾大輔著、名古屋大学出版会、2019年）。	

108	『 <b>天駆せよ法勝寺</b> 』	四六判仮フランス装（創元日本 SF 叢書）
	八島 游舷（やしま・ゆうげん）	年内
	九重塔型の宇宙船が、佛理学の力によって恒星間を駆ける——大胆な世界設定で話題を呼んだ、第9回創元SF短編賞受賞作「天駆せよ法勝寺」。作中に登場する宇宙僧（コスモンク）たちの若かりし日の活躍を中心に据え、法勝寺発進に至るまでのドラマを描ききった長編版がついに刊行。さらに奥行きとアイデア密度を増した、「佛（ぶつ）バンク」の世界がその全貌を現す。	
	著者紹介：2018年、第5回日経「星新一賞」を「Final Anchors」で受賞（電子書籍アンソロジー『日経「星新一賞」第五回受賞作品集』に、また加筆修正版が伴名練編『新しい世界を生きるための14のSF』（ハヤカワ文庫JA）に収録）、直後に第9回創元SF短編賞を「天駆せよ法勝寺」で受賞。他の作品に「時は矢のように」（創元SF文庫『時を歩く』）、「アート・テロリスト」（小説すばる2020年10月号）など。	

109	『 <b>すべての夢、果てる地で</b> 』	四六判仮フランス装（創元日本 SF 叢書）
	理山 貞二（りやま・ていじ）	夏
	記憶を失った少年Kは、別世界から派遣されたアーサー、アイザック、ボブからスカウトを受ける。彼らはこの世界のどこかで実用化されているはずの、高性能な量子コンピュータを探しているというのだが——エンタメ性と思弁性を高いレベルで合一させ、選考委員から激賞を受けた第3回創元SF短編賞受賞作「〈すべての夢   果てる地で〉」をはじめ、アイデアとワンダーをぎゅっと詰め込んだ逸品の数々を収録。日本SF界が登場を待ちわびた俊英による、堂々たるデビュー作品集。	
	著者紹介：1964年大阪生まれ、大阪大学基礎工学部卒。2012年、「〈すべての夢   果てる地で〉」で第3回創元SF短編賞を受賞。その他の作品に《年刊日本SF傑作選》の表題作となった「折り紙衛星の伝説」や「ディセロス」、「キャプテン・セニョール・ビッグマウス」などがある。	

110	『 <b>紙魚の手帖 vol.30 Genesis</b> 』	A5 判並製
		8 月
	2018年から2022年まで単行本で刊行された書下ろしアンソロジーシリーズ《Genesis》が東京創元社の総合文芸誌『紙魚の手帖』に合流！ 8月発売号をまるごとSFで彩る。創元SF短編賞受賞作、注目作家による書き下ろし短編、最新翻訳短編のほか、SF文学賞紹介記事、SFブックレビュー拡大版も。	

## ノンフィクション・その他 Lineup for 2026：Other Genres

111	『 <b>薔薇の名前バンドデシネ（コミック）版</b> 』※ <b>仮題</b> <b>Il Nome della Rosa</b>	単行本
	ウンベルト・エーコ＋ミロ・マナラ	橋本 勝雄 訳
	ウンベルト・エーコの小説をイタリアの著名なコミック・アーティストであるミロ・マナラがコミカライズしたバンドデシネ版を『薔薇の名前 [完全版] 』に続けて刊行。原書と同じく全ページカラーで収録、定評のあるマナラの美しいイラストで、『薔薇の名前』を楽しめる日本語版。	
	著者紹介：ミロ・マナラ=1945年生まれのイタリア人漫画家。エロティックな女性を描くことで有名。この有名な漫画家が『薔薇の名前』を手がけるということで一部バンドデシネ・ファンの間では話題になっていた。	

112	<b>The Bookseller of Florence: Vespasiano da Bisticci and the Manuscripts that Illuminated the Renaissance</b> ※ <b>原題</b>	四六判上製
	ロス・キング	杉田 七重 訳
	フィレンツェのルネッサンスというと、まず想起されるのは美しいフレスコ画や優美な建築だ。それらは素晴らしい画家や建築家の手によるものであるが、同じほど重要な存在——写本ハンター、写字生、学者、そして書籍商を忘れてはならない。彼らこそが、古代の知恵を発見して人々に広め、新しい世界へといざなったのだ。そして、その活動の中心に、ヴェスパシアーノ・ダ・ピスティッチという傑出した書籍商がいた——。写本から印刷へと本のかたちが移り行く時代と、長く忘れられたルネッサンス期の非凡な書籍商の姿を描く、すべての読書家に贈る傑作ノンフィクション！	
	著者紹介：1962年カナダのサスカチュワン州生まれの作家。小説とノンフィクションを手がける。著書に『天才建築家ブルネレスキ——フィレンツェ・花のドームはいかにして建設されたか』『システィナ礼拝堂とミケランジェロ』『クロード・モネ——狂気の眼と「睡蓮」の秘密』などがある。	

113	<b>Paradise of the Damned: The True Story of an Obsessive Quest for El Dorado, the Legendary City of Gold</b> ※ <b>原題</b>	四六判単行本
	キース・トムスン	杉田 七重 訳
	餓死寸前の男がカヌーに乗って、アマゾン川をたったひとりで下っている。そのまま放っておかれてもいずれ死ぬのは必然。しかしまもなく原住民につかまり、目隠しをされたままジャングルを延々と歩き続けることに。そうして到着したのは何から何まで光輝く黄金の国エルドラド。宮殿で豪華な饗応に預かった男は、好きなだけ黄金を持ち帰れといわれた……。この物語が探検家たちの冒険心に火をつけ、エリザベス女王の寵臣ウォルター・ローリーをはじめとする大勢の人間が南米の奥地ギアナへ向かった——。書簡や日記、回想録を中心資料として、黄金に取りつかれてジャングルへの冒険へ旅立った男たちの命運を描く、面白さ無類のノンフィクション。	
	著者紹介：セミプロの野球選手や風刺漫画家、脚本家などさまざまな職業を経て作家に。著作に『ぼくを忘れたスパイ』、『コードネームを忘れた男』（ともに新潮文庫）、Pirates of Pensacola、7 Grams of Lead がある。また〈ニューヨーク・タイムズ〉紙ほかに安全保障関連の記事等を寄稿している。現在はアラバマ州バーミングハムに家族と暮らす。	

114	<b>Dinosaurs at the Dinner Party: How an Eccentric Group of Victorians Discovered Prehistoric Creatures and Accidentally Upended the World</b> ※ <b>原題</b>	四六判単行本
	エドワード・ドルニック	杉田 七重 訳
	19世紀初頭のイギリス。産業革命により、各地で鉄道や道路の建設、鉱山の開発がはじまると、掘り返される土のなかから、巨大な骨が次々と現れるようになる。いったいこれはなんなのか？ それまで古代ローマやギリシア、中国などでもこのようなものは発見されていたが、たいていは神話に登場する生き物の骨だと片づけられていた。それを科学的に解明しようという気運が高まったのが、イギリスのヴィクトリア朝時代だった。	
	「恐竜」という言葉すら存在していなかった時代に、いま自分たちが暮らす世界が、じつは消えた世界の上につくられていて、その消えた世界では巨獣が暴れまわっていたのだと知らされた人々の驚愕は、いかばかりか。崖の奥深くに埋もれた化石を見つける第六感を持った、貧しく無学な女性メアリー・アニングから始まり、ウィリアム・バックランドという優秀で風変わりな地質学者、そして同世代で最も尊敬されかつ最も軽蔑された科学者リチャード・オーウェンなどの19世紀前半の古生物学者たちの姿を軸に、恐竜が〈発見〉されるまでの過程を描く、圧巻のノンフィクション！	
	著者紹介：ジャーナリスト・作家。『ムックを追え！ 『叫び』奪還に賭けたロンドン警視庁美術特捜班の100日』でアメリカ探偵作家クラブ賞を受賞。他の著作にThe ClockworkUniverse、TheForger's Spell、Down the Great Unknownなどがある。『ポストン・グループ』の元サイエンス・ライター主幹であり、『アトランティック・マンスリー』や『ニューヨーク・タイムズ・マガジン』など多数の新聞や雑誌に寄稿してきた。現在はワシントンD.C.近郊に妻と暮らす。	

115	『 <b>消えるヒッチハイカー</b> 』 <b>The Vanishing Hitchhiker</b>	四六判単行本
	ジャン・ハロルド・ブルンヴァン	満園 真木 訳
	自動車の運転手がヒッチハイカーを道中で拾うが、目的地だという家に辿り着くと、乗客はいつの間にか車内から消えている。不思議に思った運転手がその家を訪ねると、ヒッチハイカーは確かにその家の住人だったが、数年前に亡くなっていたことがわかる——現代アメリカ社会で「本当にあった」という前置きで語られる数々の噂。乾かすために電子レンジに放り込まれた猫の末路、テイクアウトのフライドチキンを食べたカップルを襲った衝撃、ニューヨークの下水に棲みつくトイレに流された元ペットの恐怖など、実際にあった事件や出来事に基づく、死や誘拐やアクシデント、スキャンダルを物語風に仕立てて流布される「都市伝説」。その研究における基本的文献が新訳にて復活。	
	著者紹介：1933年ミンガン州生まれ。61年にインディアナ大学から民俗学で博士号を受けた。ユタ大学名誉教授。現代社会で出回る噂、物語に民俗学の方法論を適用し、いわゆる「都市伝説」の概念を確立したことで知られる。『消えるヒッチハイカー』を初めとして、都市伝説に関する書籍を数冊著している。	

116	『 <b>探偵小説論Ⅳ</b> 』※ <b>仮題</b>	四六判上製 (キイ・ライブラリー)
	笠井 潔（かさい・きよし）	秋
	『探偵小説論Ⅰ 氾濫の形式』、『探偵小説論Ⅱ 虚空の螺旋』、『探偵小説論Ⅲ 昭和の死』、につづく第四弾『探偵小説論Ⅳ 終焉と誕生』。探偵小説論の集大成。第一章 探偵小説とプロレタリア文学／第二章 震災後文学と群衆都市／第三章 探偵小説と高度成長社会／第四章 探偵小説とリアリズム的規範／第五章 「冬の時代」と「夢の時代」／第六章 第三の波の終焉	
	著者紹介：1948年生まれ。'74年に渡仏、'76年に帰国。'79年に『バイバイ、エンジェル』で鮮烈なデビューを飾り、角川小説大賞受賞。'98年『本格ミステリの現在』で日本推理作家協会賞受賞。2003年に『オイディプス症候群』で本格ミステリ大賞、同時に『探偵小説論序説』で同賞の評論・研究部門賞を受賞。創作と評論両面で活躍している。	